阿片卸賣人及阿片小賣人ハ生阿片、阿片煙膏、阿片吸食器具ノ受拂ニ付其ノ前月分ヲ毎月十日迄ニ所轄省長及專賣公署長ニ報告スヘシ

第三章　生阿片ノ生産及收納

第十二條　罌粟栽培ノ區域及其ノ面積ハ毎年專賣公署長之ヲ定ム

第十三條　罌粟ヲ栽培セムトスル者ハ左記事項ヲ具シ毎年所轄省長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ之ヲ變更シ又ハ栽培ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ

一　住所　氏名　生年月日

二　栽培ノ場所　面積

第十四條　前條ノ許可ヲ受ケタル者ハ栽培地毎ニ其ノ場所面積栽培者ノ住所氏名ヲ記載シタル標木ヲ建ツヘシ

第十五條　罌粟栽培者ハ所轄省長ノ指定スル期日迄ニ其ノ生産阿片ノ數量ヲ所轄省長及專賣公署長ニ報告スヘシ

第十六條　罌粟栽培者ハ其ノ生産ニ係ル生阿片ヲ專賣公署長ノ指定シタル場所ニ提出シ又ハ阿片收買人ニ賣渡スヘシ

第十七條　阿片收買人ハ必要人員ヲ限リ專賣公署長之ヲ指定ス

第十八條　阿片收買人ハ其ノ收買ニ係ル生阿片ヲ專賣公署ニ納付スヘシ

第十九條　前條ノ納付阿片ハ專賣公署長ニ於テ之ヲ鑑別シ其ノ品位ニ依リ補償金ヲ交付ス

第二十條　阿片收買人及其ノ從業人ニハ別ニ揭クル樣式ニ依リ阿片收買人之證又ハ從業人之證ヲ交付ス

阿片收買人及其ノ從業人ハ從業中前項ノ證票ヲ携帶スヘシ

第四章　藥用阿片ノ賣下

第二十一條　藥用阿片ハ藥用阿片賣捌人ヨリ醫師醫士齒科醫師獸醫師藥劑師藥商又ハ製藥者ニ讓渡スル可シ

第二十二條　藥用阿片賣捌人ハ藥劑師ノ藥商中ヨリ所轄省長之ヲ指定ス

第二十三條　藥用阿片ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外之ヲ賣買シ又ハ授受スルコトヲ得ス

一　藥劑師又ハ藥商カ醫師齒科醫師獸醫師藥劑師藥商又ハ製藥者ニ讓渡ストキ

二　藥劑師カ醫師齒科醫師又ハ獸醫師ノ處方箋ニ依リ醫療用トシテ需要者ニ供給スルトキ

三　醫師齒科醫師又ハ獸醫師カ醫療用トシテ需要者ニ供給スルトキ

第二十四條　藥用阿片賣捌人ニ於テ藥用阿片ヲ輸出セムトスルトキハ其ノ輸出先及輸出數量ヲ具シ輸出先當該官憲ノ輸入許可證明書ヲ添ヘ民政部總長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第二十五條　藥用阿片賣捌人藥劑師及藥商ハ帳簿ヲ備ヘ藥用阿片ノ受拂ニ付其ノ數量用途年月日竝ニ受拂先ヲ其ノ都度記載スヘシ但シ藥劑師調劑用ニ使用シタルモノニ就テハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ揭クル者ハ藥用阿片ノ受拂ニ付毎年一月末日迄ニ其ノ前年分ヲ所轄省長ニ報告スヘシ

第五章　雜　則

第二十六條　阿片收買人、阿片卸賣人及阿片小賣人其ノ指定ヲ受ケタルトキハ省長又ハ專賣公署長ノ定ムル所ニ依リ保證金ヲ納付スヘシ

附　錄

第二十七條　本令ニ依リ指定又ハ許可ヲ受ケタル者又ハ阿片吸食者カ廢煙シ廢業シ又ハ死亡シタルトキハ當該事實發生ノ日ヨリ三十日以內ニ阿片收買人及阿片卸賣人ニ在リテハ專賣公署長又ハ專賣支署長ニ其ノ他ノ者ニ在リテハ所轄省長ニ本人相續人又ハ其ノ財產ヲ管理スル者ヨリ屆出テ現存阿片罌粟又ハ阿片吸食器具ノ處分ニ付指示ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ保證金ノ還付ヲ受ケムトスル者ハ本人又ハ相續人ヨリ省長、專賣公署長ニ其ノ還付ヲ請求スヘシ

第二十八條　阿片小賣人ニシテ他人ニ阿片吸食ノ場所及設備ヲ供與セムトスル者ハ左記事項ヲ具シ所轄省長ノ許可ヲ受クヘシ

一　住所氏名　生年月日

二　場所及設備

第二十九條　本令ニ依リ省長ニ提出スル書類ハ所轄警察官署ヲ、專賣公署ニ提出スル書類ハ最寄專賣官署ヲ經由スヘシ

第六章　罰　則

第三十條　第六條第八條ノ規定ニ違反シタル者ハ拘役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條　第十一條第十四條又ハ第二十五條ノ規定ニ違反シタル者ハ一月以下ノ拘役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條　本令ニ依リ阿片又ハ阿片吸食器具ヲ取扱フ者若ハ罌粟栽培ノ許可ヲ受ケタル者其ノ業務上ニ關シ不正ノ行爲アリタルトキハ其ノ業務ヲ停止シ指定又ハ許可ヲ取消シ保證金ヲ沒收スルコトアルヘシ

附　則

第三十三條　本令中民政部總長トアルハ興安省ニ在リテハ興安總署總長、所轄省長トアルハ東省特別區ニ在リテハ東省特別區長官、新京及長春縣ニ在リテハ首都警察總監、興安省ニ在リテハ所轄分省長トス

第三十四條　本令ハ阿片法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

四〇　阿片罪法　（大同元年十二月二十日敎令第一百十五號）

第一條　專賣官員ハ阿片法違反者ト認メタル者若ハ其ノ犯罪ニ係ル阿片及阿片吸食器具ヲ發見シタルトキハ本法ニ依リ之ヲ逮捕又ハ押收スヘシ

專賣官員前項ニ依リ逮捕シタル者及押收セル物件ハ之ヲ最寄警察官署ニ送致スヘシ

第二條　專賣官員ハ所有者所在不明若ハ所有者不明ノ阿片及阿片吸食器具ヲ發見シタルトキハ之ヲ押收スヘシ

前項ノ押收物件ハ專賣公署ノ所在地外ニシテ已ムヲ得サル事情アルトキハ最寄警察官署ニ之ヲ送致スルコトヲ得

第三條　前條ノ物件ハ專賣官署長又ハ送致ヲ受ケタル警察官署長ニ於テ之ヲ公示シ其ノ公示期間內ニ所有權ヲ主張スル者ナキトキハ國庫ニ歸屬ス

前項ノ公示ハ物件ノ名稱種類數量形狀及發見場所日時等成ルヘク其ノ物件ヲ知ルニ容易ナル事項ヲ詳記シ十四日間最寄揭示場ニ揭示スヘシ

第四條　警察官署長ハ前條ニ依リ國庫ニ歸屬シタル阿片及阿片吸食器具ヲ最寄專賣官署ニ引渡スヘシ

警察官署長前項ノ引渡ヲ爲ストキハ事件別ニ其ノ種類數量國庫歸屬ノ年月日ヲ記シタル書類ヲ添付スヘシ

第五條　專賣官署長又ハ警察官署長ハ第三條ノ公示期間中ニ權利ノ主張アリタル場合ハ事實ヲ審査シ之ヲ權利者ニ返還スヘシ

第六條　專賣官員ハ阿片法違反ノ嫌疑アリト認ムル場合ハ捜索ヲ爲シ必要アルトキハ嫌疑者又ハ參考人ヲ訊問スルコトヲ得

第七條　專賣官員捜索訊問押收又ハ逮捕ヲ爲ストキハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帶シ要求アルトキハ之ヲ提示スヘシ

前項ノ證票ハ別記樣式（略ス）ニ依ル

第八條　專賣官署長ハ必要ト認ムルトキハ專賣官員ニ武器ヲ携帶セシムルコトヲ得

第九條　專賣官員捜索又ハ押收ヲ爲スニ當リ必要アリト認ムルトキハ警察官吏絣私隊又ハ軍隊ニ應援ヲ求ムルコトヲ得

第十條　警察官吏其ノ職務執行ニ當リ所有者不明又ハ所有者所在不明ノ阿片及阿片吸食器具ヲ發見シタルトキハ第二條乃至第五條ノ規定ヲ準用ス

第十一條　鹽務官員、稅務官員及稅關官員其ノ職務執行ニ當リ阿片法違反者ト認メタル者若ハ所有者不明又ハ所有者所在不明ノ阿片及阿片吸食器具ヲ發見シタルトキハ第一條乃至第五條ノ規定ヲ準用ス

第十二條　本法ニ別段ノ規定アル場合ノ外捜索押收及訊問ニ付テハ刑事訴訟法ノ規定ヲ準用シ逮捕ニ付テハ檢察廳調度司法警察章程ノ規定ヲ準用ス

第十三條　本法ハ阿片法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

四一　暫行阿片收買法施行規則　（大同元年九月十七日財政部令第九號）

第一條　縣長旗長又ハ市長暫行阿片收買法第一條ノ規定ニ依リ阿片ノ提出場所ヲ指定シタルトキハ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第二條　縣長旗長又ハ市長阿片收買人ヲ特許シタルトキハ其ノ住所氏名及保證金額並ニ其ノ保管方法ヲ具シ財政部總長ニ報告スヘシ

第三條　阿片收買人ハ每旬收買阿片ノ數量及價額其ノ他收買狀況ヲ翌旬五日以內ニ縣長旗長又ハ市長ニ申告スヘシ

縣長旗長又ハ市長前項ノ申告ヲ受理シタルトキハ之ヲ取纏メ遲滯ナク財政部總長ニ報告スヘシ

第四條　阿片收買人其ノ收買阿片ヲ納付セムトスルトキハ相當量ヲ取纏メ住所氏名及阿片ノ數量ヲ記シタル納付書ヲ豫メ縣長旗長又ハ市長ヲ經テ財政部總長ニ提出シ現品ハ其ノ經由公署長ノ指示スル場所ニ之ヲ納付スヘシ

第五條　縣長旗長又ハ市長ハ阿片ノ蒐集提出保管及運送ニ關シ便宜及保護ヲ供與スヘシ

第六條　特許料ハ阿片收買人ニ於テ其ノ收買阿片ヲ納付シタル後之ヲ徵收スヘシ

第七條　本令ニ依リ財政部總長ニ提出スル書類ハ會長又ハ分會長ヲ經由スヘシ

附　錄

第八條　本令ハ暫行阿片收買法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

四二　阿片專賣籌備委員會官制（大同元年九月十六日敎令第九十一號）

第一條　阿片專賣籌備委員會ハ財政部總長ノ監督ニ屬シ其ノ諮問ニ應シ阿片專賣籌備ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス

第二條　阿片專賣籌備委員會ハ會長一人、副會長二人及委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　會長ハ財政部總長ヲ以テ之ニ充ツ

副會長ハ民政部次長及財政部次長ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ財政部總長ノ推薦ニ依リ國務總理之ヲ命シ又ハ囑託ス

第四條　會長ハ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ副會長一人財政部總長ノ命ヲ承ケ其ノ職務ヲ代理ス

第五條　委員會ニ幹事若干人ヲ置ク

幹事ハ國務院ノ高等官中ヨリ財政部總長ノ推薦ニ依リ國務總理之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理ス

第六條　委員會ニ書記若干人ヲ置ク

書記ハ財政部職員中ヨリ財政部總長之ヲ命ス

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七條　本官制ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

四三　專賣公署官制（大同元年十一月三日敎令第一〇四號）

第一條　專賣公署ハ財政部總長ノ管理ニ屬シ阿片ノ專賣ニ關スル事項ヲ掌ル

第二條　專賣公署ハ之ヲ新京ニ置ク

第三條　專賣公署ニ左ノ職員ヲ置ク

署長		簡任	
副署長	一人	簡任若ハ薦任	
事務官	十一人	薦任	
技正	二人	薦任	任（內一人ヲ簡任ト爲スコトヲ得）
屬官	四十七人	委任	
技士	九人	委任	

第四條　署長ハ財政部總長ノ指揮監督ヲ承ケ署務ヲ綜理ス

附錄

第五條　署長ハ所屬官吏ヲ指揮監督シ委任官以上ノ進退及賞罰ニ關シテハ財政部總長ニ之ヲ具狀ス
第六條　副署長ハ署長ヲ輔佐シ署長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス
第七條　事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル
第八條　技正ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル
第九條　屬官ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
第十條　技士ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス
第十一條　財政部總長ハ專賣ノ事務ヲ分掌セシムル爲必要ト認ムル地方ニ專賣支署又ハ其ノ分署ヲ設クルコトヲ得
專賣支署ニ支署長ヲ、專賣支署分署ニ分署長ヲ置キ事務官又ハ屬官ヲ以テ之ニ充ツ
支署長ハ上官ノ命ヲ承ケ支署ノ事務ヲ掌ル
分署長ハ上官ノ命ヲ承ケ分署ノ事務ヲ掌ル
第十二條　專賣公署ノ事務分科規程ハ財政部總長之ヲ定ム
第十三條　本官制ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

四四　鹽務署官制

（大同元年九月十二日教令第八十四號）

第一條　鹽務署ハ財政部ノ管理ニ屬シ鹽稅及鹽務行政ニ關スル事務ヲ掌ル
第二條　鹽務署ハ之ヲ營口ニ置ク
第三條　鹽務署ニ左ノ職員ヲ置ク

署長	簡任	
副署長	一人	簡任若ハ薦任
事務官	十七人	簡任
技正	二人	薦任
屬官	三百八十二人	委任
技士	七人	委任

第四條　署長ハ財政部總長ノ指揮監督ヲ承ケ署務ヲ綜理ス
第五條　署長ハ所屬職員ヲ監督シ委任官ノ進退及賞罰ヲ財政部總長ニ具狀ス
第六條　副署長ハ署長ヲ輔佐シ署長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス
第七條　事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル
第八條　技正ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル
第九條　屬官ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス
第十條　技士ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス
第十一條　鹽務署分科規程ハ財政部總長之ヲ定ム

第十二條　鹽務署ノ下ニ場務局及製驗絆私局ヲ置ク

場務局ハ鹽稅ノ徵收及產鹽ノ監督ニ關スル事務ヲ掌リ製驗絆私局ハ製驗及絆私ニ關スル事務ヲ掌ル

場務局及製驗絆私局ノ名稱及位置ハ別表（略ス）ニ依リ其ノ管轄區域ハ財政部總長別ニ之ヲ定ム

第十三條　場務局ニ局長ヲ置ク事務官又ハ屬官ヲ以テ之ニ充ツ局長ハ署長ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ掌ル

第十四條　製驗絆私局ニ局長ヲ置ク事務官又ハ屬官ヲ以テ之ニ充ツ

局長ハ署長ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ掌ル

第十五條　本官制ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

四五　吉黑榷運署官制（大同元年九月十二日敎令第八十五號）

第一條　吉黑榷運署ハ財政部ノ管理ニ屬シ吉林省及黑龍江省ニ於ケル鹽ノ專賣並絆私ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　吉黑榷運署ハ之ヲ新京ニ置ク

第三條　吉黑榷運署ニ左ノ職員ヲ置ク

署長　簡任

副署長　一人　簡任若ハ薦任

事務官　十五人　薦任

屬官　三百五人　委任

第四條　署長ハ財政部總長ノ指揮監督ヲ承ケ署務ヲ綜理ス

第五條　署長ハ所屬職員ヲ監督シ委任官ノ進退及賞罰ヲ財政部總長ニ具狀ス

第六條　副署長ハ署長ヲ輔佐シ署長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第七條　事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第八條　屬官ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

第九條　吉黑榷運署分科規程ハ財政部總長之ヲ定ム

第十條　吉黑榷運署ノ下ニ採運局鹽倉絆私局及絆私隊ヲ置ク採運局ハ鹽ノ購買及運送ニ關スル事務ヲ掌リ鹽倉ハ鹽ノ販賣及貯藏ニ關スル事務ヲ掌リ絆私局及絆私隊ハ絆私ニ關スル事務ヲ掌ル

採運局鹽倉絆私局絆私隊ノ名稱位置竝絆私局及絆私隊ノ管轄區域ハ財政部總長別ニ之ヲ定ム

第十一條　採運局ニ局長ヲ置ク事務官ヲ以テ之ニ充ツ

局長ハ署長ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ掌ル

第十二條　鹽倉ニ倉長ヲ置ク事務官又ハ屬官ヲ以テ之ニ充ツ

倉長ハ署長ノ指揮監督ヲ承ケ倉務ヲ掌ル

第十三條　絆私局ニ局長ヲ置ク事務官ヲ以テ之ニ充ツ

局長ハ署長ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ掌ル

第十四條　鉄私隊ニ隊長ヲ置ク屬官ヲ以テ之ニ充ツ
隊長ハ署長ノ指揮監督ヲ承ケ隊務ヲ掌ル
第十五條　本官制ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

四六　鐵道法（大同二年二月九日敕令第七號）

第一條　鐵道ハ國有トス但シ一般運送ノ用ニ供スル鐵道ニシテ主トシテ一地方ノ交通ヲ目的トスルモノ及一般運送ノ用ニ供セサル鐵道ハ國有トセサルコトヲ得
第二條　國有ノ目的ヲ達スル爲必要ナル鐵道ハ之ヲ收用ス
收用スヘキ鐵道收用ノ期日補償其ノ他ニ付テハ別ニ之ヲ定ム
第三條　前條ノ規定ハ收用スル鐵道ニ附帶スル事業ニ付之ヲ適用スルコトヲ得
第四條　國有鐵道ノ軌間ハ一米四三五トス但シ一般運送ノ用ニ供セサル鐵道ニ付テハ之ニ依ラサルコトヲ得
第五條　第一條但書ニ該當スル鐵道ニシテ國有ニアラサルモノニ付テハ別ニ之ヲ定ム
第六條　本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

四七　濬海呼海齊克三鐵道收用ニ關スル件（大同二年二月九日敕令第八號）

第一條　政府ハ鐵道法第二條及第三條ノ規定ニ依リ濬海鐵路公司、呼海鐵路公司、齊克鐵路工程局所屬ノ鐵道及之ニ附帶スル一切ノ事業ヲ收用ス
第二條　前條ノ鐵道及附帶事業收用ノ期日ハ政府之ヲ指定ス
第三條　收用補償價格ノ決定ハ各會社ト協商シテ辨理ス
協定調ハサルトキハ收用審查委員會ニ諮問シテ交通部總長之ヲ定ム
收用審查委員會ノ組織ハ別ニ之ヲ定ム
第四條　政府ハ買收ノ日ニ於テ會社ノ現ニ有スル鐵道及附帶事業ニ關スル權利義務ヲ承繼ス但シ會社ノ株主ニ對スル權利義務竝ニ借入金ニ關スル權利義務ハ此ノ限ニ在ラス
前項但書ノ借入金ニ就キ鐵道又ハ其ノ附帶事業ヲ擔保トセル場合ニ於テハ政府ハ其ノ借入金ニ關スル權利義務ヲ承繼スルモノトス
第五條　收用補償金ハ第三條ニ依リテ定メタル價格ニ依リ五十年內ニ償還スヘキ六分利附國債證券ヲ以テ之ヲ交付ス
但シ五十圓未滿ノ端數ハ之ヲ五十圓トス
第六條　政府ハ收用ノ日ヨリ國債證券交付ノ日ニ至ル迄收用補償額ニ對シ一個年百分ノ六ノ割合ニ相當スル金額ヲ會社ニ交付ス

第七條　政府ハ敎用ノ執行ニ必要ナル額ヲ限度トシテ公債ヲ發行スルコトヲ得
第八條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

四八　國道局官制（大同二年三月三日敎令第十二號）

第一條　國道局ハ國務總理ノ管理ニ屬シ國ノ直轄スル道路建設及治水計畫ニ關スル事務ヲ掌ル
第二條　國道局ハ之ヲ新京ニ置ク
國道工事施行ニ關スル事務ヲ分掌セシムル爲新京、奉天、齊齊哈爾ニ國道建設處ヲ置ク
國道建設處ノ名稱及管轄區域ハ別表ニ依ル
第三條　國道局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長	一人	簡任	
副局長	一人	簡任	
理事官	一人	簡任若ハ薦任	
技正	二九人	薦任	（內五名ヲ簡任ト爲スコトヲ得）
事務官	九人	薦任	
屬官	四七人	委任	

第四條　局長ハ國務總理ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ綜理シ所屬官吏ヲ指揮監督シ其ノ進退及賞罰ニ關シテハ國務總理ニ申請シ委任官以下ハ之ヲ專行ス
第五條　副局長ハ局長ヲ輔佐シ局長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代行ス
第六條　理事官ハ局長ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル
技正ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル
事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル
屬官ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス
技士ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス
第七條　國道局ニ左ノ三處ヲ置ク

總務處
第一技術處
第二技術處

第八條　總務處ハ左ノ事項ヲ掌ル
一　官印ノ管守及文書ニ關スル事項
二　人事ニ關スル事項

附錄

三　會計及庶務ニ關スル事項
四　國道會議ニ關スル事項
五　土地收用ニ關スル事項
六　他官署トノ連絡ニ關スル事項
七　他處ノ主管ニ屬セサル事項

第九條　第一技術處ハ左ノ事項ヲ掌ル
一　道路ノ計畫及工事施工ニ關スル事項

第十條　第二技術處ハ左ノ事項ヲ掌ル
一　治水計畫ニ關スル事項

第十一條　國道局各處及國道建設處ニ處長ヲ置キ理事官若ハ技正ヲ以テ之ニ充ツ
處長ハ局長ノ命ヲ承ケ處務ヲ掌ル

第十二條　國道局長ハ必要ニ依リ國道建設處ノ下ニ國道建設事務所ヲ置クコトヲ得

第十三條　國道局ノ分科規程ハ局長之ヲ定ム

第十四條　本官制ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別表

名稱	管轄區域
新京國道建設處	吉林省
奉天國道建設處	奉天省　熱河省　興安南分省
齊々哈爾國道建設處	黑龍江省　興安東及北分省

四九　國道會議官制（大同二年三月三日敎令第十三號）

第一條　國道會議ハ國務總理ノ諮問ニ應シ國ノ直轄スル道路ニ關スル主要ナル事項ヲ審議ス
治水其ノ他重要ナル土木工事ニ關シテハ國務總理ハ國道會議ニ諮問スルコトヲ得

第二條　國道會議ハ前二項ノ事項ニ付キ國務總理ニ建議スルコトヲ得

第三條　國道會議ハ議長副議長二人議員二十人以內ヲ以テ之ヲ組織ス
議長ハ國務總理ヲ以テ之ニ充ツ
副議長ハ民政部總長、交通部總長ヲ以テ之ニ充ツ

第四條　議員ハ左ニ揭ク者ヲ以テ之ニ充ツ

附　錄

一　總務廳長及主計處長
二　國道局長
三　興安總署次長
四　民政部總務司長及土木司長
五　軍政部顧問一人
六　財政部總務司長
七　交通部總務司長及鐵道司長
八　實業部總務司長
九　學識經驗アル者若干人

前項第九號ニ揭クル議員ハ民政部總長及交通部總長共同ノ推薦ニヨリ國務總理之ヲ委囑ス

第五條　國務總理ハ必要アリト認ムルトキハ臨時議員ヲ命スルコトヲ得

第六條　議長ハ議事ヲ整理シ會務ヲ總理ス

副議長ハ議長ヲ輔佐シ議長事故アルトキハ副議長ノ一人國務總理ノ命ヲ承ケ議長ノ職務ヲ代行ス

第七條　國道會議ニ幹事若干人ヲ置ク

幹事ハ國道局高等官中ヨリ國道局長ノ推薦ニ依リ國務總理之ヲ命ス

幹事ハ議長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條　本官制ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

五〇　哈爾賓航業聯合會總章程　（大同二年四月十二日交通部指令第六十四號）

第一章　總　則

第一條　本會ハ哈爾賓航業聯合會ト稱シ汽船及來多ヲ有スル官民全體ノ航業者ニヨリ之ヲ組織ス

第二條　本會ハ第一條航業者ノ船舶ヲ以テ松黑烏嫩額諸河川ニ於ケル航運並ニ交通部許可ノ附屬事業ヲ統制辦理スルヲ以テ目的トス

本會ニ加入セル船舶及其ノ附屬物品ハ凡テ本會ノ支配ニ屬スルモノトス

船主船舶ヲ賣却又ハ貸與スル場合ハ其ノ買受者又ハ借受者ニ對シ引續キ本會ニ加入スヘキコトヲ條件トスルコトヲ要ス

第三條　本會ニ加入スル船舶ノ資格ハ航政局ノ檢査ニ合格シタルモノナルコトヲ原則トス

船舶ハ封江ノ時開航時ノ原狀ヲ以テ船主ニ返還ス但シ自然ノ消損及船舶自體ノ缺陷ニヨル損害ハ此ノ限ニ非ラス

第四條　本會ノ試辦期間ハ一ケ年トス（自大同二年三月起至大同三年三月止）

期間滿了後船東會ノ決議ニヨリ聯合ヲ繼續スルコトヲ得

第五條　本會ノ總機關ヲ哈爾賓航業聯合總局ト稱シ哈爾賓ニ設置ス船東會ノ決議ニヨリ必要ノ地ニ分機關ヲ置クコト

ヲ得

第二章　船東會

第六條　本會ハ加入船主ヲ以テ船東會ヲ組織ス

第七條　加入船主ハ其ノ船舶ノ評定價格ニ基キ持分ヲ有ス

持分ハ評定價格一萬圓ヲ以テ一株トス

但シ一萬圓ニ滿タサル端數ハ一株トス

第八條　加入船舶ノ持分ハ暫時民國二十年ノ聯合局所定ノ利益ノ分配持分ニヨル但シ持分未定ノモノニツイテハ別ニ定ムル船舶檢查委員會ノ評定ニヨル

第九條　船東會ノ決議權ハ持分一株ヲ以テ一權トシ百株ヲ超ユルモノハ其ノ超過株每十株ヲ以テ一權ヲ加フ

但シ十株ニ滿タサル超過株ノ端數ハ一權トス

第十條　船東會ノ決議スヘキ事項ハ左ノ如シ

一　重要章程ノ制定及改廢

二　本會ノ豫算及決算

三　營業期間

四　株ノ增減及船主ノ變更ニ關スル事項

五　損益ノ處分及員工酬勞金

六　理事會及監事會ノ詮議スル事項

第十一條　船東會ノ定期會議ハ每月一回之ヲ開催ス

臨時會議ハ理事會又ハ決議權ノ三分ノ一以上ニ當ル船主ノ請求ニヨリ理事長之ヲ召集ス

第十二條　船東會ニ議長及副議長一名ヲ置ク

議長ハ交通部總長之ヲ指名シ副議長ハ商方船主ヨリ互選ス

議長事故アル場合ハ副議長之ヲ代理ス

第十三條　會議ハ決議權ノ三分ノ二以上ニ當ル船主ノ出席ヲ要シ其ノ決議ハ出席決議權ノ三分ノ二以上ノ贊同ヲ以テナスモノトス

贊否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニヨル

第十四條　船主ハ會議出席不能ノ場合書面ヲ提出シテ自己ノ使用スル責任者ヲ代理セシムルコトヲ得

第三章　理事監事及經理

第十五條　本會ニ左ノ理事監事經理ヲ置ク

理事長　一名

理事　十一名

監事長　一名

監事　十一名

附錄

總經理　一名
經理　三名

第十六條　理事長及理事五名監事長及監事三名總經理及經理一名ハ交通部總長之ヲ指名シ其ノ他ノモノハ船東會ニ於テ商方船主ヨリ之ヲ互選ス

第十七條　理事長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ綜理ス

第十八條　理事長及理事ヲ以テ理事會ヲ組織シ船東會ノ決議ニ基キ業務ニ關スル重要事項ヲ審議ス
理事會議長ノ職務ハ理事長之ヲ行フ

第十九條　理事中ヨリ四名ノ常務理事ヲ互選シ理事長ヲ補助シ理事長事故アルトキハ常務理事交互ニ之ヲ代理ス

第二十條　監事長ハ本會業務ヲ監査シ船東會ニ報告ス

第二十一條　監事長監事ヲ以テ監事會ヲ組織シ業務監査ニ關スル重要事項ヲ審議ス監事會ノ議長ノ職務ハ監事長之ヲ行フ

第二十二條　監事中ヨリ四名ノ常務監事ヲ互選シ監事長ヲ補助シ監事長事故アル時ハ常務監事交互ニ之ヲ代理ス

第二十三條　總經理ハ理事長ノ交下スル船東會及理事會ノ決議ニ基キ本會ノ業務ヲ執行ス

第二十四條　經理ハ總經理ヲ補助シ各々業務ヲ分擔シテ其ノ責ニ任ス

第二十五條　總經理及經理ノ報酬ハ別ニ之ヲ定ム

第二十六條　理事監事及經理ノ任期ハ一ケ年トシ若シ缺員ヲ生シタル場合ハ第十六條ニヨリ之ヲ補充ス補充人員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第二十七條　本會ノ理事會監事會ノ規則ハ別ニ之ヲ定ム

第四章　會計

第二十八條　本會ハ大同三年三月三十一日ヲ以テ決算期トシ決算報告ニヨリ左ノ事項ヲ決定ス

一　損益ノ處分方法

二　理事監事經理及員工ノ酬勞金

第二十九條　本會ノ損益ハ第七條第八條ノ規定スル株數ニヨリ各船主ニ按分ス
但シ第七條第三項ノ株ハ其ノ割合ニヨル

第三十條　經理ハ每月末結算シ之ヲ船東會ニ報告スヘシ

前項ノ結算ニ於テ剩餘金アル時ハ其ノ一部ヲ積立テ剩餘金ノ殘餘ヲ船主ニ分配スルコトヲ得

第二項ノ積立金ハ決算期ニ至ルマテ之ヲ保留スルモノトス

第三十一條　營業期間內ニ於ケル本會員工ノ給料其ノ他一切ノ經費ハ凡テ本會加入船主ノ分擔トシ本會之ヲ支拂フ封江後ニ於ケル船舶其ノ他ノ經費ハ本會事務處理ニ要スルモノヲ除クノ外凡テ加入船主ノ負擔トス

第三十二條　本會加入船舶ノ不可抗力又ハ船舶自體ノ缺陷ニ基因スル損害ハ船主ノ負擔トス

第三十三條　本會加入船舶ハ船舶自體ノ缺陷ニ基因シ引續キ三日以上停航スルコト航行期間ノ十分ノ一以上ニ當ル日數ニ達シタル時ハ其ノ停航日數ノ割合ニヨリ剩餘金ノ分配ヲ減スルモノトス

附錄

第三十四條　前二條ノ損害ニ關シ爭執ヲ生シタル場合ハ別ニ定ムル船舶檢査委員會ノ判定ニヨルモノトス

第三十五條　本會ハ加入船主ノ對外債權債務其ノ他一切ノ紛糾ニツキ其ノ責ニ任セス

第三十六條　本會ノ契約ハ凡テ本會ノ名義ヲ以テシ理事長及總經理之ニ署名ス

第三十七條　本會ハ理事監事聯席會議ノ決議ヲ經ルニアラサレハ金額又ハ價格一萬圓以上ノ貸借ヲナスコトヲ得ス

第三十八條　本會ノ理事監事經理竝ニ員工ハ凡テ自己又ハ他人ノ債務ノタメ本會ノ名義又ハ職名ヲ使用スルコトヲ得ス

附　則

第三十九條　本章程ハ船東會ノ決議ヲ經テ交通部總長ニ呈報シ認可後之ヲ施行ス

五一　船舶檢査委員會章程

第一條　聯合會ハ加入船舶ノ實際能力確定ノタメ船舶檢査委員會ヲ設置ス

第二條　聯合會理事監事ノ聯席會議ノ決議ニヨリ人員ヲ指定シ船舶檢査委員會ヲ組織ス

本委員會ハ加入船舶ノ航行能力ヲ檢査シ評定價格ヲ決定ス

第三條　本委員會ハ船舶技術員及專門委員ヨリ之ヲ組織シ船主ハ之ニ參加スルコトヲ得ス

第四條　本委員會決定ノ各船能力ニ對シテハ船主之ニ抗議スルコトヲ得ス但シ船主ハ相當ノ理由ヲ具シ再檢査ヲ要求スルコトヲ得

第五條　聯合會加入船舶ニツキ總章程第三十二條及第三十三條ニ關シ爭執ヲ生シタル場合ハ本委員會ノ檢査ニ依ツテ之ヲ判定スルモノトス

第六條　航政局ノ檢査ニヨリ不合格ノ船舶ハ各船主完全ニ修理シ本委員會ノ檢査許可後本會ニ加入スルコトヲ得但シ特別ノ事情アル場合ハ船東會ノ決議後更ニ本委員會ニ於テ持分ヲ決定ス

第七條　本委員會ノ船舶檢査規則ハ別ニ之ヲ定ム

五二　航空郵便規則　（大同元年十月二十六日交通部令第十七號）

第一條　郵便物ハ本規則ノ定ムル所ニ依リ航空取扱ト爲スコトヲ得

第二條　航空郵便物ヲ運送スヘキ航空線路ハ別ニ之ヲ告示ス

第三條　航空郵便物ニ付テハ通常ノ郵便料金ノ外左ノ特別料金ヲ完納スルコトヲ要ス

種別區別		國內相互間及關東州ニ宛ツルモノ	朝鮮ニ宛ツルモノ	日本內地ニ宛ツルモノ
書狀	重量二十瓦每又ハ其ノ端數每ニ	一角五分	一角五分	三角
郵便葉書	通常	七分	七分	一角五分
	往復	往返信各別ニ七分	同上七分	同上一角五分

附錄

新聞紙　五十瓦毎ニ（但シ二瓩迄）　百瓦迄　二角五分

書籍印刷物業務用書類
- 二百五十瓦迄　二角五分
- 五百瓦迄　二角五分
- 一瓩迄　六角
- 二瓩迄　六角
- 三瓩迄（但シ書籍ニシテ單冊ヲ差出ス場合ニ限ル）　一圓二角五分

商品見本
- 百瓦迄　二角五分
- 二百五十瓦迄　二角五分
- 三百五十瓦迄　二角五分
- 五百瓦迄　二角五分

小包郵便物
- 一瓩迄　二圓
- 一瓩ヲ超ユル部分ハ五百瓦又ハ其ノ端數毎ニ　一圓

第四條　航空郵便物ニハ其ノ表面ニ「航空」ノ指定ヲ明瞭ニ表示スヘシ

第五條　航空郵便物ハ之ヲ郵局ニ差出スヘシ但シ書留ニ非サル通常郵便物ハ之ヲ郵便函ニ差入ルルコトヲ得

第六條　郵便函ニ差入レタル航空郵便物ニシテ通常ノ郵便料金及航空特別料金ヲ完納セサルモノハ「航空」ノ指定ヲ抹消シ航空取扱ヲ爲ス但シ既納料金額カ航空特別料金ニ達スルモノニ限リ航空取扱ヲ爲スコトアルヘシ此ノ場合ハ料金不足ノ郵便物ノ例ニ依リ不足料金ヲ徴收ス

第七條　航空郵便物ト雖航空路ニ依ルトキハ遲達スト認ムル場合ハ通常ノ方法ニ依リ之ヲ遞送スルコトアルヘシ

第八條　航空郵便物ハ其ノ名宛地ノ郵局ニ於テ配達又ハ交付シ能ハサルトキハ通常ノ方法ニ依リ之ヲ轉送又ハ還付ス

第九條　航空郵便物ノ航空特別料金ハ左ノ場合ニ限リ差出人ノ請求ニ依リ之ヲ還付ス

一　郵局ノ過失ニ因リ通常ノ方法ニ依リ到達シ得ヘキ時刻ヨリモ遲レテ受取人ニ到達シタル場合

二　通常ノ方法ノミニ依リ遞送シタル場合

第十條　本令ハ大同元年十一月三日ヨリ之ヲ施行ス但シ國内相互間及關東州宛航空小包郵便物ハ當分ノ内之カ取扱ヲ爲サス

五三　軍事郵便ニ關スル件　（大同二年三月二十二日敎令第十八號）

第一條　左ニ揭クルモノハ之ヲ軍事郵便ト爲スコトヲ得

一　戰時又ハ事變ニ際シ戰地若ハ之ニ準スヘキ地ニ在リ又ハ該地ニ派遣セラルル軍隊軍艦軍衙軍人又ハ軍屬ヨリ發スル郵便

附　錄

二　戰時又ハ事變ニ際シ戰地又ハ之ニ準スヘキ地ニ在ル者ニシテ當該軍衙ノ許可ヲ得タル者ヨリ發スル郵件

三　前二號ニ揭ケル者ニ宛テ發スル郵件

第二條　前條第一號及第二號ニ依ル軍事郵件ハ其ノ料金ヲ免除ス

前條第三號ニ依ル軍事郵件ハ料金完納ノモノニ限ル其ノ料金未納又ハ不足ノモノハ差出人ニ還付シ不納額ノ二倍ヲ徵收ス

第三條　軍事郵件ニ關シ必要ナル制限並ニ軍事郵件取扱ニ關スル損害賠償ハ主管總長別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

第四條　條約ニ依リテ取扱ノ郵件ニハ第二條及第三條ヲ適用セス

第五條　軍事郵件ノ取扱開始及終止ハ交通部總長之ヲ命ス

第六條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

五四　軍事郵件章程　（大同二年三月二十二日交通部令第一號）

第一條　戰地又ハ之ニ準スヘキ地ニ在リ又ハ該地ニ派遣スル軍隊軍艦軍衙軍人軍屬ニ宛テ又ハ該地ニ在ル者ニシテ當該軍衙ノ許可ヲ得タル者ニ宛テ發スル軍事郵件ハ左ノ種類ニ限ル

一　郵件

（一）書狀

（二）明信片

（三）新聞紙　印刷物　像片

二　小包

第二條　戰地若ハ之ニ準スヘキ地ニ在リ又ハ該地ニ派遣スル軍隊軍艦軍衙軍人軍屬竝ニ該地ニ在ル者ニシテ當該軍衙ノ許可ヲ得タル者ヨリ發スル軍事郵件ハ左ノ種類ニ限ル

一　郵件

（一）書狀　一通ノ重量公用ハ六百グラム私用ハ二十グラムヲ超過セサルモノ但シ從軍記者等ノ軍事通信ニ關スル書狀ハ一通ノ重量ヲ二百グラム迄トナスコトヲ得

二　小包

第三條　第一條及第二條ニ定ムル軍事郵件ノ種類ハ時宜ニ依リ之ヲ增減スルコトアルヘシ

第四條　軍事郵件ハ差出人ニ於テ其ノ表面ニ「軍事郵件」ノ四字ヲ記載シ尙ホ公務ニ屬スルモノハ「公務」ノ二字ヲ朱記スヘシ

第五條　公務軍事郵件ハ掛號快信航空郵遞及存局候領トナスノ外特殊取扱トナスコトヲ得ス

第六條　私用軍事郵件ニシテ第一條ニ依ルモノハ存局候領トナスノ外特殊取扱トナスコトヲ得ス

第七條　軍事郵件ノ差出人ハ其ノ郵件ノ差立前ニ限リ名宛變更又ハ取戻ヲ其ノ引受局所ニ請求スルコトヲ得但シ之カ

附錄

爲メ事務ニ差支アルトキハ拒絶スルコトアルヘシ

第八條　軍事快信竝ニ軍事小包ノ轉送及還附ニ關シテハ別ニ料金ヲ徵收セス

第九條　第一條ニ依ル軍事郵件ハ普通郵局ノ取扱中ニ亡失又ハ毀損シタル場合ニ限リ一般ノ規定ニ依リ其ノ損害ヲ賠償ス

第十條　軍事郵件ノ取扱ニ關シテハ本章ニ定ムルモノヲ除クノ外一般ノ規定ニ依ル

第十一條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

五五　軍事郵件寄遞章程　（大同二年三月二十二日軍政部令第一號）

第一條　本章程ハ戰地若ハ之ニ準スル地域又ハ該地ニ派遣ノ途中ニ於ケル軍事郵件ノ寄遞ニ關スル事項ヲ規定スルモノトス

第二條　戰地若ハ之ニ準スル地ニ在ル軍人軍屬以外ノ者ハ軍司令部、艦隊司令部又ハ特ニ定ムル軍衙ノ許可ヲ得テ軍事郵件ヲ差出スコトヲ得

第三條　前條ノ郵件ハ其ノ表面ニ軍衙ノ證明ヲ受クルコトヲ要ス

第四條　軍事郵件ハ軍事郵件取扱局所在地ニアリテハ之ヲ其ノ局ニ差出スヘシ

但シ軍事郵件ノ爲ニ郵便函ヲ設ケタル地ニアリテハ其ノ普通郵件ニ限リ之ヲ其ノ函ニ差入ルコトヲ得

第五條　軍事郵件取扱局所在地外ニ在ル者ヨリ差出ス郵件ハ各部隊又ハ各艦ニ於テ取纏メ之ヲ公務ト私用トニ區分シテ軍事郵件取扱局ニ送付スルモノトス

第六條　戰地派遣ノ途中軍事郵件取扱局ナキ地ニ於テ差出ス軍事郵件ハ各部隊又ハ各艦ニ於テ取纏メ軍事郵件タルコトヲ證明シ當該地ノ普通郵局ニ差出スモノトス

第七條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

五六　滿洲地名傳送上ノ名稱　（大同二年四月二十日交通部佈告第一二號）

左記電報局ニ於テハ漢文及歐文電報ノ外日文電報ヲモ取扱ノ傳送上ノ名稱左ノ如シ此ニ佈告ス

記

省名	局名	傳送上ノ名稱	
		日文	歐文
吉林	哈爾賓	ハルピン	Harbin
黑龍江	齊齊哈爾	チチハル	Tsitsihar

奉天	山海關	サンカイカン	Shanhaikwan
興安	滿洲里	マンシウリ	Manchouli
同	海拉爾	ハイラル	Hailar
熱河	北票	マンシウホクヘウ	Pehpiao
奉天	綏中	スイチウ	Suichung
同	通遼	ツウレウ	Tungliao
同	洮南	トウナン	Taonan
同	遼源	レウゲン	Liaoyuan
熱河	承德	セウトク	Chengteh
同	赤峰	セキホウ	Chihfeng
同	朝陽	テウヨウ	Chaoyang
奉天	海龍	カイリウ	Hailung Fengtien
同	山城子	サンゼウシ	Shanchengtze
吉林	新京	マンシウシンケウ	Hsinking

但新京電報局ニ於テ取扱フ日文電報ハ國內發著ノ官報ニ限ル

交通部總長　丁　惟　修

第一條　政府ハ其ノ益金ヲ以テ災害救濟費ニ充當シ又ハ災害救濟基金ヲ造成スル爲彩票ヲ發行スルコトヲ得

第二條　彩票ヲ發行セムトスルトキハ財政部總長ハ其ノ目的每回ノ發行高發行號數一號ノ價格得彩金發行期日及抽籤ノ期日竝ニ場所其ノ他必要ナル事項ヲ定メテ之ヲ公告ス

第三條　每回ノ得彩金ノ總額ハ彩票發行高ノ百分ノ五十以上トス

第四條　彩票一號ノ價格ハ五圓以下トス但シ一號ヲ數條ニ均等分割スルコトヲ得

第五條　彩票ノ當籤ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

抽籤ハ財政部總長ニ於テ立會人三人以上ヲ指定シ公開シテ之ヲ行フ當籤彩票ノ番號ハ之ヲ公告ス

第六條　得彩金ハ當籤彩票ト引換ニ財政部總長ノ指定シタル場所ニ於テ其ノ所持人ニ之ヲ支拂フ但シ一號ヲ數條ニ分割シタル場合ハ其ノ條數ニ應シ均分シテ之ヲ支拂フ

第七條　得彩金ハ當籤公告ノ日ヨリ五日ヲ經タル後支拂ヲ開始ス

得彩金ノ請求權ハ支拂開始ノ日ヨリ起算シ六月ヲ經過スルニ依リテ消滅ス

第八條　彩票ニシテ汚染若ハ毀損ニ依リ其ノ眞贋又ハ同數番號ヲ鑑別シ難キモノハ之ヲ無效トス

第九條　彩票ハ財政部總長ノ指定シタル代賣人ヲシテ引受ケシメ販賣セシム

第十條　代賣人ニハ引受金額ニ應シ手數料ヲ交付ス但シ其ノ手數料ハ引受金額ノ百分ノ七ヲ超ユルコトヲ得ス

第十一條　代賣人ハ自己ノ販賣シタル彩票ニシテ當籤シタルモノアルトキハ當該彩票ノ所持人ヨリ得彩金ノ百分ノ三以内ヲ報酬トシテ受クルコトヲ得

第十二條　行使ノ目的ヲ以テ彩票ヲ僞造又ハ變造シタル者ハ六月以下ノ有期徒刑若ハ拘役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス僞造若ハ變造ノ彩票ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ他人ニ交付シタル者亦同シ

第十三條　本條例ノ施行細則其ノ他必要ナル事項ハ財政部總長之ヲ定ム

第十四條　本條例又ハ本條例ニ基キテ發スル命令ニ依ル公告ハ滿洲國政府公報ニ之ヲ揭載ス

第十五條　本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

五八　滿洲中央銀行繼承資産審定委員會官制

（大同二年二月二十二日敎令第十號）

第一條　滿洲中央銀行繼承資産審定委員會ハ國務總理ノ監督ニ屬シ滿洲中央銀行組織辦法第十一條第二項ノ規定ニ依ル評價及査定ヲ爲ス

第二條　本委員會ハ會長一人、副會長一人及委員八人ヲ以テ組織ス

第三條　會長ハ國務總理ヲ以テ之ニ充ツ

副會長ハ財政部總長ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ左ニ揭ク者ヲ以テ之ニ充ツ

一　民政部總長
二　實業部總長
三　總務廳長
四　財政部次長
五　滿洲中央銀行總裁
六　滿洲中央銀行副總裁
七　國務總理ニヨリ命セラレタル滿洲中央銀行理事監事各一人

第四條　會長ハ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキ其ノ職務ヲ代行ス

第五條　本委員會ニ幹事若干人ヲ置ク關係各官署高等官竝ニ滿洲中央銀行理事ノ中ヨリ國務總理之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第六條　本委員會ニ書記若干人ヲ置ク財政部屬官竝ニ滿洲中央銀行職員ノ中ヨリ國務總理之ヲ任命ス

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七條　本官制ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

五九　物品會計規則（大同元年十一月九日敕令第一〇六號）

第一章　總則

第一條　本規則ニ於テ物品ト稱スルハ政府ニ屬スル工事材料機械器具備品消耗品其ノ他一切ノ動產ヲ謂フ但シ陸海軍ノ兵備ニ關スルモノ及ヒ法令ヲ以テ特ニ定ムルモノハ此ノ限ニアラス

第二條　政府ノ保管ニ屬スル物品ニシテ國務總理又ハ各部總長ノ特ニ指定スルモノハ本規則ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ國務總理又ハ各部總長ヨリ監察院ニ通知スヘシ

第三條　物品ノ會計ハ總テ年度ヲ以テ區分シ每年七月一日ヨリ翌年六月三十日ニ至ル十二箇月ヲ以テ一年度トス

第四條　物品ノ會計ハ現ニ物品ヲ出納シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ區分スヘシ

第二章　物品ノ購買供給及修理

第一節　通則

第五條　物品ノ購買ハ凡テ國務總理之ヲ行フ但シ地方所在官署ノ長官ハ第十四條ノ貯藏物品ヲ除キ一廉一千圓未滿ノ物品ハ直接之ヲ購買スルコトヲ得

第六條　各官署ノ長官ハ需要緊急ニシテ請求ノ遑ナク且其ノ地ニ於テ調達シ得ル物品ハ直接之ヲ購買スルコトヲ得前項ニ依リ物品ノ直接購買ヲ爲シタル場合ハ其ノ理由ヲ附シ遲滯ナク之ヲ國務總理及監察院ニ報告スヘシ

第七條　前二條ノ外各官署ノ長官ハ特別ノ理由アルトキハ國務總理ノ認可ヲ經テ物品ノ直接購買ヲ爲スコトヲ得

第八條　物品ノ修理ニ關シテハ本章ノ規定ヲ準用ス

第二節　供用物品

第九條　供用物品トハ國務總理ノ管理ニ屬シ各官署ニ配備シテ其ノ使用ニ供スル物品ヲ謂フ

第十條　各官署ニ配備セラレタル供用物品ニ關シテハ其ノ配備ヲ受ケタル官署ノ物品出納官吏之カ保管ノ責ニ任スヘシ

第十一條　供用物品ノ豫算及決算ハ國務總理ノ所管トス但シ特別會計ニ對シ配備セル供用物品ニ就テハ此ノ限ニアラス

第三節　貯藏物品

第十二條　貯藏物品トハ各官署ニ供給スル目的ヲ以テ國務院總務廳需用處ニ貯藏セラルル物品ヲ謂フ

第十三條　國務總理ハ必要アル地方ニ貯藏物品ノ分藏ヲ爲スコトヲ得

第十四條　國務總理ハ必要アルトキハ貯藏物品ノ貸付又ハ拂下ヲナスコトヲ得

第三章　不用物品

第十五條　各官署ニ於テ不用トナリタル物品ハ遲滯ナク國務總理ニ戻納スヘシ但シ戻納ヲ爲ス能ハサル事由アルトキハ其ノ處置ニ關シ國務總理ノ指揮ヲ乞フヘシ

附錄

第十六條　國務總理特別會計ニ屬スル不用物品ノ戻納ヲ受ケタルトキハ其ノ受入價格ヲ定メテ之ヲ當該特別會計ニ拂込ムヘシ

前項ノ受入價格ハ戻納物品ノ現狀ニ於ケル利用價値又ハ處分價値ヲ超ユルコトヲ得ス

第十七條　戻納物品ハ之ヲ再用品及處分品ニ選別スヘシ

處分品ハ適當ノ時機ニ於テ之ヲ賣却處分ニ付スヘシ

再用品ニシテ賣却ヲ有利ト認ムルモノハ適當ノ時機ニ於テ賣却處分ニ付スルコトヲ得

第四章　物品出納官吏

第十八條　物品ヲ保管シ之カ出納ヲ掌ル者ヲ物品出納官吏トス

第十九條　物品出納官吏ハ國務總理又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏之ヲ命ス

第二十條　國務總理又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ必要アル場合ニ於テハ物品出納官吏ノ代理官又ハ分任官ヲ置クコトヲ得

前項代理官ハ物品出納官吏ノ事務ノ全部ヲ代行シ分任官ハ其ノ一部ヲ分掌スルモノトス

第二十一條　國務總理又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ特ニ指定スル場合ニ限リ其ノ官署ノ事務員ヲシテ物品出納官吏所屬ノ物品出納員トシテ物品ノ出納保管ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

物品出納官吏ニ關スル規定ハ物品出納員ニ之ヲ準用ス

第二十二條　物品出納官吏其ノ代理官若ハ分任官又ハ物品出納員ハ法令ニ據リタル命令アルニ非サレハ物品ノ出納ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條　物品出納官吏其ノ代理官若ハ分任官又ハ物品出納員ハ其ノ故意怠慢ニ由リ保管ノ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ辨償ノ責ニ任スヘシ

第二十四條　各官吏以下ノ使用ニ供シタル物品ノ亡失毀損ニ就テハ物品出納官吏ハ合規ノ監督ヲ怠リタル場合ノ外ハ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得

第二十五條　物品出納官吏ハ其ノ責任ニ屬スル物品ノ出納保管ニ付自ラ事務ヲ執ラサリシコトヲ理由トシテ其ノ責ヲ免ルコトヲ得ス但シ其ノ代理官分任官又ハ物品出納員ノ行爲ニ就テハ此ノ限ニ在ラス

第五章　物品ノ出納保管檢查

第二十六條　國務總理又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ檢查ノ官吏ヲ指命シ每年度末ニ於テ物品出納官吏其ノ代理官若ハ分任官又ハ物品出納員ノ保管スル帳簿及物品ノ全部ヲ精細ニ檢查セシメ其ノ調書ヲ作成セシムヘシ

第二十七條　國務總理又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ必要ト認ムルトキハ臨時ニ檢查ノ官吏ヲ指命シ物品出納官吏其ノ代理官若ハ分任官又ハ物品出納員ノ保管スル帳簿及物品ヲ檢查セシメ其ノ調書ヲ作成セシムルコトヲ得

第二十八條　前二條ノ調書ニハ檢查官吏及檢查ヲ受ケタル官吏若ハ事務員又ハ特ニ命セラレタル立會官吏之ニ署名スヘシ

第二十九條　物品ノ出納ニ關シテハ凡テ監察院ノ審定ヲ受クヘシ

附　則

附　錄

第三十條　本規則ニ關スル事務取扱ニ就テハ院令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條　本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

六〇　國地稅劃分案綱要（財政部訓令第七六號）

(一)　國稅地方稅劃分ノ原則

現行稅捐ハ其ノ徵收機關ノ如何ヲ問ハス從前中央竝省政府ノ歲入ニ屬セシモノハ總テ之ヲ國稅トシ其ノ他ハ之ヲ地方稅トシテ市縣及設治局ノ收入ニ歸セシム

國稅ノ種目ハ別表ニ依ル但シ別表ノ區分ニ依リ難キモノ又ハ其ノ區分ノ明ナラサルモノハ財政部總長之ヲ定ム

(二)　奉天省內施行中ノ地方稅中國稅ニ移管セシメ稅則及稅率ハ從前ノ儘トシ稅捐局ヲシテ之ヲ徵收セシム

奉天省內地方稅中左ニ揭ク稅捐ハ之ヲ國稅ニ移管セシム但シ田賦及之ニ附隨スル捐費ハ市縣ニ其ノ徵收ヲ委任シ一定ノ徵收費ヲ交付ス

イ　田賦

ロ　營業稅

ハ　牙當稅

ニ　燒酒牌照稅

ホ　牲畜稅

ヘ　前各項ノ租稅ニ附隨スル捐費

(三)　現行ノ國稅中地方ニ委讓スヘキ稅目

左ニ揭ク稅捐ハ之ヲ市縣及設治局ニ委讓シ其ノ機關ヲシテ之ヲ徵收セシム但シ從前市縣及設治局ニ於テ稅捐ノ徵收ヲ爲ササルモノハ從前ノ徵收機關ヲシテ之ヲ徵收セシムルコトヲ得

イ　車捐

ロ　船捐

ハ　廟捐　妓捐　戲捐

ニ　前各項ノ稅捐ニ附隨スル捐費

(四)　奉天省地方稅ノ國稅移管及國稅ノ地方委讓ノ期日

第三號案奉天省地方稅國稅移管及第四號案國稅ノ地方委讓ハ等シク本年十月一日ヲ期シ之ヲ實施ス

別表

國稅種目一覽表

一　關稅

二　噸稅

三　鹽稅

附錄

四田賦
五契稅
六礦稅
七煤稅
八營業稅
九牙當稅
一〇銷場稅
一一牲畜稅
一二漁稅
一三出產稅
一四酒稅
一五菸稅
一六統稅
一七印花稅
一八前各項ノ租稅ニ附隨スル捐費

前各項ノ外車捐船捐廟捐妓捐戲捐及之等ノ稅捐ニ附隨スル捐費ヲ除キ從前中央竝省政府ノ收入ニ屬シタル稅捐ハ總テ

之ヲ國稅トス

六一　印花稅票發行ニ關スル件（大同元年十月二十日財政部令第一一號）

第一條　印花稅票ハ財政部ニ於テ之ヲ發行ス

第二條　印花稅票ノ形式ハ別表（省略）ニ依ル

第三條　印花稅票ノ額面ハ之ヲ國幣トス

第四條　印花稅票ハ大同元年十月二十五日ヨリ之ヲ發賣スヘシ

第五條　印花稅票ハ大同元年十一月一日ヨリ之ヲ使用スヘシ

第六條　從前各省ニ於テ發行シタル印花稅票ハ大同元年十月三十一日迄ノ間ニ於テ新印花稅票ト引換フヘシ

第七條　前條ノ引換期間ハ變災其ノ他已ムヲ得サル事由アルモノニ付テハ之ヲ延長スルコトアルヘシ

前項ノ引換ニ關スル手續ハ別ニ之ヲ定ム

第八條　舊印花稅票ノ引換價格ハ額面ニ依ル但シ從前吉林省ニ於テ發行シタル印花稅票ノ引換價格ハ額面ノ百分ノ八十トス

附則

附錄

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

六二　對支輸出入品竝船舶ニ關スル課稅方法等ニ關スル訓令

（財政部訓令第七八號）

各稅關長ニ令ス

今般對中華民國輸出入品及船舶ノ課稅方法等左ノ如ク改ムルニ決シ來ル十五日午後三時之ヲ中外ニ聲明シ九月二十五日ヨリ之ヲ實施スルニ付貴官ハ右ニ關スル萬般ノ準備ヲ整ヘ徵稅事務ノ澁滯ヲ來スコトナキヲ期スヘシ此ニ令ス

記

一　滿洲國ヨリ海路又ハ陸路ニ依リ中華民國ニ輸出スル物品ニ對シテハ現行稅率ニ依リ輸出稅ヲ課ス

二　中華民國ヨリ海路又ハ陸路ニ依リ滿洲國ニ輸入スル物品ニ對シテハ現行稅率ニ依リ輸入稅ヲ課ス

倘實施ノ日以前ニ荷主ニ於テ善意ニ中華民國港以外ノ港ヨリ積出シ中華民國ノ諸港ニ於テ輸入稅ヲ徵收セラレ實施ノ日以後ニ於テ滿洲國諸港ニ到着スル貨物ニ就テハ不當ノ損害ヲ與ヘサル樣相當ノ考慮ヲナス

三　噸稅ニ關シテハ中華民國ニ於テ發給セラレタル稅噸納付濟證書ハ滿洲國ニ於テハ之ヲ無效トス

滿洲國開港ニ出入スル船舶ニ對シテ稅關ニ於テ噸稅ヲ課スル其ノ方法稅率及效力ハ從來ノ例ニ準ス

四　滿洲國諸港ト中華民國諸港間ノ內水航行權ハ之ヲ認メス中華民國ニ於テ發給セラレタル內水航行免狀ハ滿洲國ニ於テ之ヲ無效トス

税關長ハ內水航行ニ關スル免狀ヲ發給スルコトヲ得其ノ方法及效力等ハ從來ノ例ニ準ス

五　水災附加稅ハ本改正實施ノ日ヨリ之ヲ賑災附加稅ト改稱シ北滿水災救恤其ノ他ノ賑災經費ニ充ツル爲當分ノ內從來ノ通リ之ヲ徵ス

六　以上改正ハ本月二十五日ヨリ實施ス尙右實施ニ關シテハ左ノ如ク取扱フモノトス

(イ)　輸入品ニ關シテ期日前ニ到着セル物品ニシテ期日前ニ輸入申告ヲ爲シタルモノノ外ハ改正規則ヲ適用ス

(ロ)　輸出品ニ關シテハ(一)海路ニ依ル場合ハ期日前ニ輸出申告ヲ爲シ積込ムヘキ船舶期日前ニ入港セルトキノ外ハ改正規則ヲ適用ス(二)陸路ニ依ル場合ハ期日前輸出申告ヲ爲シ汽車其他運搬手段カ期日前ニ國境ヲ通過スルコトヲ豫想シ得ル場合ノ外ハ改正規則ヲ適用ス

(ハ)　噸稅ニ關シテ假令期日前ニ入港シタル船舶ナリト雖モ期日後ニ出港スル場合ハ改正規則ニ依ル噸稅ヲ納付セシム

大同元年九月十五日

財政部總長　熙洽

代理部務次長　孫其昌

六三　建國公債條例（大同元年十一月六日敎令第一〇九號）

附錄

建國ニ伴フ必要ノ經費ニ充ツル爲政府ハ日貨三千萬圓ヲ發行シ之ヲ建國公債ト稱ス
本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

六四　建國公債發行規程　（大同元年十一月九日院令第十七號）

第一條　政府ハ建國公債條例ニ依リ日貨公債額面三千萬圓ヲ發行ス
第二條　本公債ノ元金ハ大同四年一月十一日ヨリ五ヶ年間内ニ左記區分ニ依リ之ヲ償還ス

自大同四年一月十一日 至大同五年一月十一日	二百萬圓以上
自大同五年一月十一日 至大同六年一月十一日	四百萬圓以上
自大同六年一月十一日 至大同七年一月十一日	六百萬圓以上
自大同七年一月十一日 至大同八年一月十一日	八百萬圓以上
自大同八年一月十一日 至大同九年一月十一日	殘額

本公債ノ一部償還ハ抽籤ノ方法ニ依ル

政府ハ何時ニテモ本公債ノ買入銷却ヲ爲スコトヲ得
第三條　本公債ノ元金ヲ償還セントスルトキハ買入銷却ノ場合ヲ除キ其ノ金額期日其ノ他必要事項ヲ東京市及大阪市ニ於テ發行スル新聞紙各二種以上ニ廣告ス
第四條　本公債ノ發行價格ハ額面金額百圓ニツキ九十六圓五十錢トス
第五條　本公債ノ利率ハ一ヶ年百分ノ五トス
第六條　本公債ノ利子ハ毎年六月一日及十二月一日ニ於テ各前六ヶ月分ヲ支拂ノ發行及償還ノ場合ニ於テ六ヶ月ニ滿タサルトキハ日割ヲ以テ計算ス
但シ大同二年六月一日ニ支拂フヘキ利子ハ額面金額百圓ニツキ一圓九十五錢九厘五毛トス
第七條　本公債ノ券ハ無記名利札付トシ百圓五百圓一千圓五千圓及一萬圓ノ五種トス
第八條　本公債ノ元利金ノ支拂事務ハ株式會社日本興業銀行本支店ニ於テ之ヲ取扱フ
第九條　本公債ノ申込期間ハ大同元年十二月一日ヨリ同三日迄トス但シ同三日前ト雖其ノ申込ヲ締切ルコトアルヘシ
第十條　本公債ノ應募者ハ應募額及住所氏名ヲ記載シタル應募申込書ニ應募額百圓ニ付五圓ノ證據金ヲ添ヘ之ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ
第十一條　本公債ノ應募總額カ發行額ヲ超過スルトキハ各應募申込ニ對シ適宜募入額ヲ定ム
第十二條　本公債ノ應募者ニシテ募入セラレタル者ハ左ノ區分ニ依リ募入額ニ對スル拂込ヲ爲スヘシ但シ第一回拂込

附錄

ハ證據金ヲ以テ之ニ充ツ

第一回　募入決定ノ際　　募入額百圓ニ付五圓

第二回　大同元年十二月二十日　募入額百圓ニ付九十一圓五十錢

募入外トナリタル應募者ノ證據金ハ其ノ請求ニ依リ之ヲ還付ス

第十三條　本公債ハ吉黑榷運署及阿片專賣公署ノ益金ヲ以テ擔保トシ元利金ハ右益金中ヨリ優先ニ之ヲ支拂フ

第十四條　本規程ハ大同元年十一月十九日ヨリ之ヲ施行ス

六五　各省及興安各分省警備司令官竝ニ其ノ擔任區域及所屬軍隊ニ關スル件

（大同二年五月三日軍令第二號）

第一條　各省及興安各分省ニ警備司令官ヲ置ク

第二條　各省及興安各分省警備司令官ノ擔任區域ハ當該各省及當該興安各分省トス　但シ通遼縣ハ當分ノ間興安南分省警備司令官ノ擔任區域トス

第三條　各省及興安各分省警備司令官ノ指揮スル軍隊ハ治安ノ狀況ニ應シ軍政部總長其ノ都度之ヲ定ム

第四條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五條　大同元年軍令第二號ハ之ヲ廢止ス

六六　軍艦進水規則（大同二年四月二十四日軍政部令第七號）

第一條　新造軍艦進水ノ期ニ近ツキタルトキハ造船所長ハ進水ノ期日ヲ豫定シ三十日以前ニ軍政部總長ニ通知スヘシ

軍政部總長ハ前項ノ通知ニ基キ命名式日ヲ定ム

軍艦ノ命名式ハ進水ノ時期ニ擧行セラルルモノトス

第二條　命名式ノ期日決定シタルトキハ造船所長ハ進水次第書ヲ調製シ豫メ軍政部總長ノ認許ヲ受クルモノトス

第三條　軍艦進水シタルトキハ造船所長ハ直ニ之ヲ軍政部總長ニ報告スヘシ

第四條　軍艦ヲ船臺ニ於テ建造シタルトキハ之ヲ水上ニ浮泛セシムルヲ進水トシ船渠内ニ於テ建造シタルトキハ船渠外ニ出スヲ進水トス

第五條　軍艦ノ進水ハ船臺進水ニ在リテハ船體ノ水面ニ向テ進行ヲ起ス時ヲ以テ始リ全ク水上ニ浮泛シタル時ヲ以テ終リ船渠進水ニ在リテハ船體ノ船渠外ニ向テ進行ヲ起ス時ヲ以テ始リ全ク船渠外ニ出テタル時ヲ以テ終リトス

第六條　軍艦ヲ進水セシムル際ニハ軍政部總長進水命令書ヲ朗讀ス終テ之ヲ造船所長ニ授ク造船所長進水命令書ヲ受ケタルトキハ直ニ進水擔當ノ所員ニ令シテ軍艦ヲ進水セシムヘシ

附　錄

第七條　進水命令書ハ左ノ例ニ依ル

何種艦何大同何年何月何日工ヲ起シ今ヤ艦體成ルヲ告ケ玆ニ命名ノ式ヲ擧ケ進水セシメラル

大同　年　月　日

軍政部總長　姓　名

第八條　命名式場ニ參列スヘキ諸員概ネ左ノ如シ

軍政部總長　外國ニ於テ建造ノ場合ハ參列セサルヲ例トシ百噸以下ノ軍艦ノ場合ハ代理者ヲ以テスルヲ例トス

造船所所在地ノ艦隊司令官

軍政部艦政課長

艤裝員長

造船造兵監督官

當該造船所長

當該造船所ノ主ナル職員

當該造船所進水掛ノ所員

第九條　軍政部總長命名式ニ參列セサルトキハ進水命令書ヲ其ノ代理者ニ送授シ朗讀セシム

六七　馬政局官制

（大同二年五月三日敎令第三十二號）

第一條　馬政局ハ軍政部ノ管理ニ屬シ馬ニ關スル事項ヲ管掌ス

第二條　馬政局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長	一人	簡任	
副局長	一人	簡任又ハ薦任	
事務官	三人	薦任	
馬政官	六人	薦任	
技正	六人	薦任	（內一人ヲ簡任ト爲スコトヲ得）
屬官	一四人	委任	
技士	六人	委任	
譯官	二人	委任	

第三條　局長ハ軍政部總長ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ綜理シ所部ノ官吏ヲ指揮監督シ薦任官以上ノ進退及賞罰ニ關シ軍政部總長ニ上申シ委任官以下ハ之ヲ專行ス

第四條　副局長ハ局長ヲ輔佐シ局長故障アルトキハ其ノ職務ヲ代行ス

事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

附　錄

馬政官ハ上官ノ命ヲ承ケ馬ニ關スル事務ヲ掌ル
技正ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル
屬官ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス
技士ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス
譯官ハ上官ノ指揮ヲ承ケ繙譯ニ從事ス
第五條　馬政局分科規程ハ軍政部總長之ヲ定ム
第六條　本官制ハ公布ノ日ヨリ施行ス

六八　馬政委員會官制（大同二年五月三日敎令第三十三號）

第一條　馬政委員會ハ軍政部總長ノ監督ニ屬シ其ノ諮問ニ應シテ馬政ニ關スル事項ヲ審議ス
委員會ハ馬政ニ關スル事項ニ付軍政部總長ニ建議スルコトヲ得
第二條　委員長一人、委員十五人以內ヲ以テ之ヲ組織ス
特別ノ事項ヲ調査審議スル爲必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得
第三條　委員長ハ軍政部次長ヲ以テ之ニ充ツ委員及臨時委員ハ軍政部總長ノ推薦ニ依リ關係各署高等官及學識經驗ア
ル者ノ中ヨリ國務總理之ヲ命シ又ハ委囑ス
第四條　委員長ハ會務ヲ綜理ス委員長事故アルトキハ軍政部總長ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス
第五條　委員會ニ幹事ヲ置ク軍政部總長ノ推薦ニ依リ國務總理之ヲ命ス
幹事ハ委員長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ整理ス
第六條　委員會ニ書記ヲ置ク軍政部總長之ヲ命ス
書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
第七條　本官制ハ公布ノ日ヨリ施行ス

六九　賽馬法（大同二年五月三日敎令第三十四號）

第一條　政府又ハ馬ニ關スル知識ノ普及ヲ目的トスル民法第四十六條所定ノ法人ニシテ主管總長ノ許可ヲ受ケタルモ
ノニ非サレハ本法ニ依ル賽馬ヲ行フコトヲ得ス
第二條　賽馬ハ春秋二季ノ定期賽馬及臨時賽馬ノ二種トス
第一條所定ノ法人臨時賽馬ヲ行ハムトスルトキハ主管總長ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
第三條　前條ノ規定ニ依ル賽馬ノ入場者ハ命令ノ定ムル所ニ依ル無料入場者ヲ除クノ外入場料ヲ支拂フヘシ
第四條　政府及第一條所定ノ法人ハ入場者ニ對シ券面金額一圓以上二十圓以內ノ勝馬票ヲ券面金額ヲ以テ發賣スルコ
トヲ得

第五條　政府ハ券面金額壹圓以上拾圓以内ノ搖彩票ヲ券面金額ヲ以テ發賣スルコトヲ得

第六條　當該競馬ノ開催ニ關係アル官吏當該競馬ヲ開催スル法人重事監事若ハ職員又ハ當該競馬ノ開催執務委員調教師騎手馬夫其ノ他當該競馬ノ事務ニ從事スル者ニ對シテハ勝馬票ヲ發賣スルコトヲ得ス前項所定ノ者ハ當該競馬ニ關スル勝馬票ヲ購買スルコトヲ得ス

第七條　政府及第一條所定ノ法人ハ當該競爭ニ付テノ勝馬票ノ賣得金額ヲ超エサル範圍内ニ於テ勝馬票的中者ニ拂戻金ヲ交付スルモノトス

第八條　政府ハ搖彩票當籤者ニ對シ當該競爭ニ付テノ搖彩票ノ賣得金額ヲ超エサル範圍内ニ於テ配當金ヲ交付スルモノトス

第九條　第七條所定ノ拂戻金ノ債權ハ發賣當日第八條所定ノ配當金ノ債權ハ六箇月内ニ於テ之ヲ行ハサルトキハ消滅ス

第十條　政府勝馬票ヲ發賣シタルトキハ賣得金額ヨリ第七條所定ノ拂戻金ヲ控除シタル殘額ヲ收得ス

第十一條　第一條所定ノ法人勝馬票ヲ發賣シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ賣得金額ノ百分ノ十以内ニ相當スル額ヲ政府ニ納付スヘシ

第一條所定ノ法人勝馬票ヲ發賣シタルトキハ賣得金額ヨリ前項ノ政府納付金及命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ收得トナルヘキ賣得歩合金ヲ控除シタル殘額ヲ第七條所定ノ拂戻金トナスコトヲ要ス

第十二條　政府搖彩票ヲ發賣シタルトキハ賣得金額ヨリ第八條所定ノ配當金ヲ控除シタル殘金ヲ收得ス

第十三條　第十條所定ノ收得金額及第十一條第一項所定ノ納付金額ニ相當スル額ハ馬ノ改良增殖及馬事知識ノ普及ノ爲必要ナル經費ニ充當スルコトヲ要ス

前條所定ノ政府收得金額ニ相當スル額ハ前項ノ經費並ニ畜産事業及社會事業ノ爲必要ナル經費ニ充當スルコトヲ要ス但シ馬ノ改良增殖及馬事知識普及ノ爲必要ナル經費ハ總額ノ二分ノ一ヲ下ルコトナシ

第十四條　主管總長ハ第一條所定ノ法人ニ對シ馬ノ改良增殖及馬事知識ノ普及又ハ搖彩票ノ發賣ニ關スル協力ヲ命スルコトヲ得

第十五條　第一條所定ノ法人ノ董事長ハ主管總長之ヲ任命ス

第十六條　主管總長ハ公益上必要アリト認ムルトキハ第一條所定ノ法人ノ章程ノ改正ヲ命シ又ハ其ノ總會ノ決議ヲ取消スコトヲ得

第十七條　主管總長ハ第一條所定ノ法人又ハ董事ノ行爲カ法令若ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　競馬ノ停止

二　勝馬票發賣ノ停止又ハ制限

三　董事ノ解任

主管總長ハ第一條所定ノ法人ノ社員競馬ニ關シ公益ヲ害スル所爲アリト認ムルトキハ當該法人ニ對シ其ノ除名ヲ命スルコトヲ得

附　錄

第十八條　賽馬場ノ開設又ハ維持競走馬ノ出馬登錄又ハ出場賽馬ノ觀覽勝馬投票ノ發賣購買搖彩票ノ購買拂戾金又ハ賽馬賞金ノ交付又ハ受領配當金ノ受領其ノ他賽馬ノ開催又ハ施行ニ關シテハ課稅スルコトヲ得ス

第十九條　第一條所定ノ法人ニ非スシテ勝馬票又ハ之ニ類スルモノヲ發賣シ又ハ本法ニヨル賽馬ニ關シ多衆ヲ集合シ財物ニ依ル賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ有期徒刑ニ處シ五千圓以下ノ罰金ヲ併科スルコトヲ得

第二十條　政府ハ相當ノ補償金ヲ以テ第一條所定ノ法人ニ屬スル賽馬施設ヲ收用スルコトヲ得

第二十一條　第六條ノ規定ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第二十二條　本法ノ施行期日ハ軍政部總長之ヲ定ム

七〇　國立賽馬場官制　（大同二年五月三日敎令第三十五號）

第一條　國立賽馬場ハ馬政局ノ管理ニ屬シ賽馬竝ニ馬ノ改良及調査ニ關スル事項ヲ掌ル

第二條　國立賽馬場ハ之ヲ奉天及哈爾賓ニ設ク

第三條　各國立賽馬場ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

場　長　二人　薦任
事務官　五人　薦任
技　正　四人　薦任
屬　官　二〇人　委任
技　士　四人　委任

第四條　場長ハ馬政局長ノ指揮監督ヲ承ケ場務ヲ綜理シ所屬職員ヲ指揮監督シ委任官ノ進退及賞罰ニ付テハ馬政局長ニ上申ス

第五條　事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

技正ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

屬官ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

技士ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第六條　賽馬場分科規程ハ馬政局長之ヲ定ム

第七條　本官制ハ公布ノ日ヨリ施行ス

七一　臨時訂立條約準備委員會官制　（大同元年九月十三日敎令第八十七號）

第一條　臨時訂立條約準備委員會ハ國務總理ノ監督ニ屬シ諸外國トノ間ニ締結スヘキ條約其ノ他國際約定ヲ立案又ハ審議シ國務總理ニ報告ス

附　錄

第二條　臨時訂立條約準備委員會ハ委員長一名、委員十名以内ヲ以テ之ヲ組織ス
特別ノ事項ヲ立案又ハ審議スル爲必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條　委員長ハ外交部總長ヲ以テ之ニ充ツ
委員及臨時委員ハ國務院各部總長次長總務廳次長竝ニ學識經驗アル者ノ中ヨリ國務總理之ヲ指名ス

第四條　委員長ハ會務ヲ總理ス
委員長ハ國務院各部局ニ對シ必要事項ノ調査立案ヲ求ムルコトヲ得委員長事故アルトキハ國務總理ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代行ス

第五條　臨時訂立條約準備委員會ニ幹事長一名幹事若干名ヲ置ク
幹事長ハ外交部次長ヲ以テ之ニ充ツ委員長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス幹事ハ國務院高等官中ヨリ國務總理之ヲ指名ス
幹事ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條　臨時訂立條約準備委員會ニ書記若干名ヲ置ク
書記ハ國務院高等官又ハ委任官中ヨリ國務總理之ヲ指名ス
書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

七二　外國旅券及外國人入國旅券査證規則

（大同二年八月十二日外交部令第一號）

第一條　外國ニ旅行セムトスル者ニ下付スル旅券ハ外交部總長之ヲ發給シ外國ニ在リテハ我カ在外公館ノ設置アル場合ハ該官署之ヲ發給ス

第二條　旅券下付ヲ申請セムトスル者ハ旅券下付願ニ左記書類及寫眞ヲ添ヘ當該官署ニ申請スヘシ

一　身許申告書
二　他ヨリ派遣セラルル場合ニハ派遣者ノ保證書
三　外國在留者ヨリノ呼寄ニ關スル書信ヲ有スル者ハ該書信
四　其ノ他參考トナル可キ書類アルトキハ該書類
五　寫眞二葉（最近撮影ニ係ル手札形半身脫帽無窠紙）

當該官署ハ其ノ認定ニ依リ前項第一號及第二號ノ書類ノ提出ヲ省略セシメ又ハ申請者外國官署ノ下付シタル入國ニ關スル許可書通知書若ハ證明書ヲ有スルトキハ該書類ヲ呈示セシムルコトヲ得
第三條　公用ノ爲外國ニ旅行セムトスル者及其ノ同伴セムトスル家族從者ニ關シテハ本人所屬長官ヨリ各寫眞二葉且ツ從者ニ付テハ本人ノ身許保證書ヲ添附シテ外交部總長ニ公用旅券ノ下付ヲ請求スヘシ

附　錄

公用ノ爲外國ニ在ル者其ノ家族又ハ從者ヲ呼寄セムトスル場合ハ前項ニ準ス

第四條　旅券ノ下付ヲ受ケタル後該旅券面記載ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキ其ノ他旅券ノ書換ヲ必要トスル場合ハ事由ヲ具シ旅券發給ノ權限アル官署ニ其ノ書換ヲ申請スヘシ

第五條　旅券ノ下付ヲ受ケタル者旅券ノ日附ヨリ六個月以内ニ出發セサルトキハ該旅券ハ其ノ效力ヲ失フ

第六條　特定ノ地ニ數次往復スル者ニ對シテハ願出ニ依リ往復旅券ヲ下付スルコトヲ得

前項ノ旅券ハ其ノ日附ヨリ三年ヲ經過シタル後初メテ歸國シタルトキ其ノ效力ヲ失フ

第七條　無效又ハ失效ノ旅券ハ遲滯ナク旅券發給ノ權限アル官署ニ返納スヘシ有效ナル旅券ト雖旅券發給ノ權限アル官署ヨリノ命令アルトキ亦同シ

第八條　旅券ヲ紛失シ又ハ滅失シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ旅券發給ノ權限アル官署ニ届出ツヘシ紛失シタル旅券ヲ發見シタル場合亦同シ

第九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ其ノ旅券ヲ沒收シ百圓以下ノ罰金又ハ三箇月以下ノ徒刑若ハ拘役ニ處ス

一　虚僞ノ記載又ハ申立ヲ爲シ其ノ他欺罔ノ手段ニ依リ旅券ノ下付ヲ受ケタル者又ハ之ヲ幇助シタル者

二　他人ノ旅券ヲ使用シ又ハ他人ヲシテ自己ノ旅券ヲ使用セシメタル者

三　前號ノ目的ヲ以テ旅券ヲ授受シタル者及之ヲ幇助シタル者

四　旅券ヲ返納スヘキ場合之ヲ返納セスシテ使用シ又ハ事實ヲ僞リテ旅券ヲ紛失シ若ハ滅失シタル旨ヲ届出タル者

五　行使ノ目的ヲ以テ旅券ヲ僞造若ハ變造シ又ハ情ヲ知リテ僞造若ハ變造シタル旅券ヲ使用シ若ハ使用セシメタル者

第十條　旅券發給及書換ニ關シテハ左ノ手數料ヲ徵收ス

普通旅券發給	一葉毎ニ	五圓
數次往復旅券發給	同	十圓
旅券書換	同	三圓

前項ノ諸手數料ハ印花ヲ以テ納付スヘシ在外公館ニ於テハ別ニ定ムル換算率ニ從ヒ當該駐在國ノ貨幣ヲ以テ之ヲ納付スル事ヲ得

第十一條　旅券下付願ハ國内ニ在リテハ縣長首部警察總監又ハ哈爾賓警察廳長ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ

第十二條　配偶者又ハ子ヲ同伴セムトスルキトハ本人ノ旅券下付願ニ其ノ同伴セムトスル者ノ氏名ヲ併記シ別紙ニ其ノ年齡身分身體ノ特徵其ノ他必要ナル事項ヲ各人別ニ記載スルコトヲ得

前項ノ場合發給官署ハ本人及同伴セムトスル者ノ氏名ヲ併記シタル一葉ノ旅券ヲ發給スヘシ

第十三條　從前ノ條約若ハ慣例ニ依リ入國ニ付旅券査證ヲ要スヘキ者本邦ヘ入國セムトスルトキハ豫メ我カ在外公館ニテ旅券ノ査證ヲ受クヘシ我カ在外公館ノ設置ナキ國ヨリ來リタル者ハ入國ノ際外交部ヨリ派出セル官吏ニ就キ旅券ノ査證ヲ受クヘシ

旅券査證ノ手數料ハ別ニ之ヲ定ム

附　錄

第十四條　本令中外國旅券ニ關スル規定ハ在留無國籍人ニ之ヲ準用ス

第十五條　本令ハ大同二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

外國旅券及外國人入國旅券査證規則第十三條ニ依ル派出官吏駐在地ハ當分左ノ通リトス

一　東省特別區ヘ入國スルモノハ外交部滿洲里辦事處及外交部綏芬河辦事處ニ於テ旅券ノ査證ヲ受クヘシ

二　山海關ヨリ入國スル者ハ外交部山海關辦事處ニ於テ　胡盧島及營口ヨリ入國スル者ハ外交部營口辦事處ニ於テ旅券ノ査證ヲ受クヘシ

三　關東州ヲ經由シ入國スル者ハ滿洲國外交部大連辦事處ニ於テ旅券ノ査證ヲ受クヘシ

四　朝鮮經由入國スル者ハ安東或ハ厥幕洞又ハ滿洲國外交部京城或ハ羅津辦事處ニ於テ旅券ノ査證ヲ受クヘシ

以上

七三　外國人入國旅券査證施行細則

（大同二年四月十二日外交部令第二號）

第一條　旅券下附願ハ縣長長春縣ニ於テハ首都警察總監哈爾賓警察廳管轄區ニ於テハ哈爾賓警察廳ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ

第二條　東省特別區黑龍江省興安省及吉林省内ノ居住者ハ外交部北滿特派員ニ旅券ノ下附ヲ申請スルコトヲ得

第三條　本邦ニ入國セムトスル者ハ豫メ本邦駐在自國公館ヲ經由シ本邦駐在自國公館ナキトキハ本邦内居住ノ身許確實ナル者ノ保證書ヲ差出シ外交部總長又ハ外交部北滿特派員ニ旅券査證豫諸書ノ下附ヲ申請スルコトヲ得

旅券査證豫諸書ヲ有スル者旅券査證ヲ受クル際之ヲ旅券ト共ニ提出スルトキハ當該官吏ハ迅速ニ且特別ノ事情ナキ限リ必ス旅券査證ヲ爲スヘキモノトス

第四條　入國ニ際シ左記各號ノ一ニ該當スルコトヲ證明スルニ足ル切符船室車室保留承諾書其ノ他ノ確證ヲ有シ且旅行目的國當該官署ノ査證ヲ受ケタル旅券又ハ之ニ代ル可キ書類ヲ有スル者ハ之ヲ提示シテ旅券査證官吏ニ通過査證ノ申請ヲ爲スコトヲ得

一　船舶ノ寄港ニ依リ本邦ニ立寄リ同一船舶ノ引續キ爲ス航海ニテ外國ニ向ケ立チ去ル場合

一　本邦ニ於テ下船スルモ二十日以内ニ他ノ船ニ乘換ヘ又ハ鐵道若ハ航空機ニ依リ本邦ヲ立去ル場合

一　鐵道若ハ航空機ニ依リ本邦ニ入國シ二十日以内ニ外國ヘ向ケ立去ル場合

前項ノ場合ニ於テ所定ノ期間ヲ過キテ本邦ヲ立去ル時ハ出國ノ際入國査證料ヲ追徴ス

第五條　通過査證ハ旅券面又ハ之ニ代ル可キ書類面ニ査證年月日入國地名及入國年月日ヲ記シ其ノ左側ニ査證者ノ官職氏名ヲ署シ官印ヲ押捺スルモノトス

第六條　旅券査證料並ニ旅券査證豫諸書發給手數料ハ左ノ通之ヲ定ム

一　入國旅券査證料　　每件　拾圓

一　通過旅券査證料　　每件　貳圓

一　旅券査證豫諸書發給手數料

附　錄

本邦ト通商航海條約ヲ締結セル國ノ國民　無料
其ノ他　貳圓

前項査證料及手數料ハ外交部總長ニ於テ必要ト認メタル場合ニ於テハ之ヲ免除スルコトヲ得

第七條　本令ノ諸手數料ハ印花ヲ以テ納付スヘシ在外公館ニ於テハ別ニ定ムル換算率ニ從ヒ當該駐在國ノ貨幣ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

第八條　本令ハ大同二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

七四　國外在留人假登錄暫行規則　（大同二年四月十九日外交部令第三號）

第一條　在外公館長ハ其ノ管轄區域內在留人ニシテ本邦ノ國籍取得ヲ要求スル者ニ對シ適當ト認ムル時ハ國籍ノ假登錄ヲ爲スコトヲ得但シ他國ノ國籍ヲ有セルモノハ此限リニアラス

第二條　國籍假登錄ヲ爲サムトスル者ハ國籍假登錄申請書ニ左記書類及寫眞ヲ添ヘ當該官署ニ申請スヘシ

一　身許申告書
二　國內在住ノ確實ナル者ノ保證書アル時ハ該保證書
三　其ノ他參考トナルヘキ書類アルトキハ該書類

四　寫眞二葉（最近撮影ニ係ル手札形半身脫帽無臺紙）

當該官署ハ認定ニ依リ前項第一號及第二號ノ書類ノ提出ヲ省略セシムルコトヲ得

第三條　當該官署ハ國籍假登錄ヲ受ケタル者ニ對シ滿洲國人民ニ對スルト同一ナル保護ヲ與ヘ且國籍假登錄證明書ヲ下付スルコトヲ得

第四條　當該官署ハ國籍假登錄ヲ受ケタル者左記各號ノ一ニ該當スト認メタルトキハ其ノ假登錄ヲ取消シ又ハ國籍假登錄證明書ノ無效ヲ布告スルコトヲ得

一　我國ノ利益ヲ害シ公安ヲ亂シ又ハ風俗ヲ紊スノ虞アル者
二　我國ノ法規及慣行ヲ無視スル所爲アル者
三　欺罔ノ所爲ニ依リ假登錄ヲ受ケタル者

第五條　當該官署ハ國籍假登錄申請ニ基キ國籍假登錄原簿ヲ作成スヘシ當該官署ハ國籍假登錄原簿ニ關スル事項ヲ每年四回外交部總長ニ報告スヘシ

第六條　國籍假登錄手數料及國籍假登錄證明書下付手數料左ノ通定ム

國籍假登錄	一件	一圓
登錄書換	一件	一圓
國籍假登錄證明書	一件	一圓

第七條　本規則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

附　錄

七五　日本國駐在外交官官制（大同二年四月二十六日敕令第二十六號）

第一條　日本國ニ於テ外交交涉其ノ他ノ事務ヲ掌理セシムル爲同國ニ特命全權大使（特任）若ハ特命全權公使（特任若ハ簡任）ヲ駐箚セシム

第二條　特命全權大使ヲ駐箚セシメタル場合ハ其ノ下ニ左ノ職員ヲ置ク

大使館參事官	簡任若ハ薦任	二名
大使館一等秘書官、大使館二等秘書官、大使館三等秘書官若ハ隨習秘書官		
	薦任	四名
大使館主事	委任	五名

特命全權公使ヲ駐箚セシメタル場合ハ其ノ下ニ左ノ職員ヲ置ク

公使館參事官	簡任若ハ薦任	二名
公使館一等秘書官、公使館二等秘書官、公使館三等秘書官若ハ隨習秘書官		
	薦任	四名
公使館主事	委任	五名

第三條　特命全權大使若ハ特命全權公使ハ部下ノ官吏ヲ指揮監督シ其ノ功過ニ付外交部總長ニ呈請ス

大使館參事官若ハ公使館參事官ハ特命全權大使若ハ特命全權公使ヲ輔佐シ事務ヲ掌ル

大使館一等秘書官、公使館一等秘書官、大使館二等秘書官、公使館二等秘書官、大使館三等秘書官、公使館三等秘書官若ハ隨習秘書官ハ上司ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

大使館主事若ハ公使館主事ハ上司ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

第四條　本官制ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五條　大同元年敕令第四十七號在日本代表公署官制ハ之ヲ廢止ス

七六　熱河地方設治工作條目（國務院訓令第五〇號）

各總長ニ令ス

現在熱河全省ハ漸次克復ス該地方ノ設治工作ハ至テ重要ニシテ剿匪ノ行動ト共ニ從來ノ各行政機關廓清ノ準備ヲナシ兼テ目前ノ治安ヲ確保シ經濟復興ヲ策スヘシ其一切工作ハ左記條目ニ依テ施行スヘシ此ニ令ス

大同二年三月十日

國務總理　鄭孝胥

熱河地方設治工作條目

（一）一般方針

設治工作終了後ニ於ケル該地方ノ行政組織ニ關スル方針左ノ如シ

甲　昭烏達盟中シラムレン河流域以北ノ地域（經棚ヲ含ム）ハ興安總署ノ管轄ニ移シ興安西分省ト爲シ分省公署ヲ開
　　營ニ置ク
乙　前號以外ノ昭烏達盟　卓索圖盟　瀦河區ノ地域ヲ以テ熱河省ト爲シ省公署ヲ承德ニ置キ公署駐派辦事處ヲ朝陽
　　及赤峰ニ置ク
　駐派辦事處ノ管轄區域左ノ如シ
　熱河省公署朝陽駐派辦事處ノ管轄區域
　　朝陽　阜新　凌源　平泉　大寧　凌南ノ各縣
　　熱河省公署赤峰駐派辦事處ノ管轄區域
　　赤峰　建平　全寧　綏東ノ各縣
　瀦河區ノ地域ハ左ノ通リトシ省公署ノ直轄トス
　　承德　圍場　隆化　瀦平　豐寧　青龍ノ各縣

（二）設治工作方針

甲　中央ニ熱河設治工作中央幹事會ヲ設置シ設治工作ニ關スル計畫及統制ヲ爲サシメ幹事會ニ關スル事務ハ民政部
　　ヲシテ之ヲ取扱ハシム
乙　錦州ニ熱河設治工作辦事處ヲ置キ承德、朝陽及赤峰ニ於ケル設治工作班ニ關スル事務ヲ處理セシメ且ツ中央ト
　　ノ連絡ニ當ラシム

丙　興安西分省區域ニハ興安總署ヨリ別ニ工作員ヲ派遣シ興安總署ノ指揮ヲ承ケシム

（三）財政方針

甲　熱河省內一切ノ支出ハ出來得ル限リ現狀維持ヲ旨トシテ之ヲ整理シ關稅及鹽稅ヲ除ク省ノ收入ヲ以テ經理セシ
　　ムル方針トス
乙　稅制徵稅機關等ハ凡テ舊來ノモノヲ踏襲シ人民ノ生活ニ急激ナル變化ヲ與フル如キ變革ハ力メテ之ヲ避ク但シ
　　最近不當不正ニ增徵若ハ新賦セラレタル一切ノ負擔ハ之ヲ輕減又ハ廢止ス

（四）徵稅及其ノ他ノ財務工作

一　承德ニ稅關ヲ置キ赤峰其ノ他邊境ノ關門ニ分關分卡ヲ設置スル外徵稅機關ハ凡テ從來ノ制ニ依ル
二　財政ニ關シ中央ト連絡シ及省ノ財務ヲ統制指導セシムル爲適當ナル地方ニ財政工作班ヲ派遣シ財政工作班ハ別ニ
　　指定スルモノヲ除キ政治工作班ト連絡シ中央幹事會及錦州辦事處ノ統制ニ服スヘシ

（五）阿片ニ關スル方針

一　阿片ノ栽培所持及吸食ニ關シテハ暫ク從來ノ制ニ依ラシム
二　省境ヲ出入スル阿片ニ關シテハ凡テ專賣公署ヲシテ處置セシム
三　適當ノ地ニ專賣公署ニ屬スル阿片收納機關ヲ設ケ阿片ノ收納統制及專賣ノ效果ヲ徹底セシム
四　阿片ニ關スル各機關ハ一般設治工作班ト緊密ナル連絡ヲ保持スヘシ

（六）金融ニ關スル方針

一　熱河設治工作費、討匪費、阿片收買費等ニハ可及的國幣ヲ利用シテ國幣ノ流通ヲ普及セシム

二　舍內銀行ハ可及的速ニ接收ヲ行ヒ實收ヲ調査シテ適當ノ方法ヲ講セシム

三　貨幣制度ハ急激ナル變革ヲ避ケテ一般民衆ノ生活ニ動搖ヲ與ヘサル範圍ニ於テ漸次統制セシム

（七）通信ニ關スル方針

一　通信機關ハ郵便電信電話トモ各別ノ管理機關ヲ置カス統一シテ之ヲ整備スルノ方針トシ揣匪行動ニ隨伴シテ其ノ後方連絡ニ遺憾ナカラシム

二　從前ノ從業員ハ固ヨリ一般住民ニ對シテモ通信事業ニ關スル從來ノ方針ヲ急激ニ變革セサル中央ノ意圖ヲ充分ニ了解セシム

三　通信關係工作ニ關シテモ中央幹事會錦州辦事處其ノ他一般設治工作機關ト充分ナル連絡ヲ保持スヘシ

（八）工作員心得

一　凡テ工作員ハ國務院ノ發行スル身分證明書ヲ携帶スヘシ

二　工作員ノ任務ハ設治工作一段落ト共ニ一應終了スルモノト心得ヘシ

三　工作員ノ食料ハ出先軍隊ヨリ配給ヲ受クルモノトス

四　其ノ他ハ本訓令ヲ熟讀シ政府ノ方針ニ違背スルコトナキヲ期スヘシ

七七　日系滿洲國官吏人員表

大同二年五月二十二日現在

官等／級	特任	簡任	薦任	委任	雇員	傭員	其他	計
一等	三	五		一四七				一五五
二等		二九		三二〇				三四九
三等			一〇	七七				八七
四等			二一	一八				三九
五等			四五	一				四六
六等			四五					四五
七等			一一〇					一一〇
八等			一四〇					一四〇

	簡任待遇	薦任待遇	委任待遇	囑託	其他	女	合計
三							
三九	五						
三八五		一四					
五八〇			一七				
二一四				一六二	五二		
三				三			
九				九			
一、二三三	五	一四	一七	九	一六五	五二	

滿洲國政治機關一覽表

- 執政
  - 參議府
    - 秘書局
  - 國務院
    - 總務處
      - 會計科
      - 調查科
    - 國務顧問
      - 滿洲中央銀行繼承資產審定委員會
      - 積欠善後委員會
    - 國道會議
      - 國道局
        - 總務處
        - 第一技術處
        - 第二技術處
      - 官衙建設計畫委員會
      - 國都建設局
        - 總務處
        - 技術處
        - 國都建設計畫諮問委員會
      - 臨時訂立條約準備委員會
      - 法制局
        - 統計處
          - 編纂科
          - 調查科
          - 資料科
          - 總務科
        - 逆產處理委員會
          - 總務處
          - 調查部
          - 判定部
          - 處理部
  - 立法院
    - 秘書廳
      - 文書科
      - 庶務科
      - 會計科
      - 記錄科
  - 執政府（府中令）
    - 秘書廳
    - 內務處
    - 掌禮處
    - 醫衛處
    - 會計審查局
    - 侍從武官
    - 侍衛官
    - 內廷局
  - 總務廳
    - 秘書廳
      - 秘書官室
      - 總務科
      - 文書科
    - 人事處
      - 人事科
      - 給與科
      - 調查科
    - 主計處
      - 總務科
      - 一般會計科
      - 特別會計科
      - 司計科
    - 需要處
      - 總務科
        - 庶務股
        - 計理股
      - 用度科
        - 購買股
        - 供給股
      - 營繕科
        - 企畫股
        - 接洽股
        - 管理係
    - 情報處
    - 大同學院
  - 各省公署（參事官）
    - 總務廳
    - 民政廳
    - 警務廳
    - 實業廳
    - 教育廳
    - 各縣公署
      - 總務局
      - 內務局
      - 警務局
      - 實業局
      - 教育局
      - 土木局
      - 衛生局
      - 自治縣ニ於テ部長ニアルトキ置カルルコトヲ得
      - 縣自治委員會
      - 警察練習所
  - 特別市（特別市自治委員會）
    - 總務處
    - 行政處
    - 工務處
    - 警察廳
      - 警務科
      - 特務科
      - 保安科
      - 司法科
      - 衛生科
    - 警察練習所
  - 日本國駐在外交官（外交部北滿特派員公署）
    - 領事館
  - 外交部
    - 總務司
      - 庶務科
      - 計畫科
      - 秘書科
      - 文書科
    - 通商司
      - 商政科
      - 僑務科
    - 政務司
      - 俄國科
      - 亞細亞局
      - 歐美科
    - 宣化司
      - 宣傳科
      - 文化科
  - 軍政部
    - 參謀司
    - 軍需司
    - 馬政局
      - 馬政委員會
      - 國立賽馬場
      - 被服廠
        - 被服本廠
        - 被服支廠
  - 財政部
    - 總務司
      - 人事科
      - 文書科
      - 會計科
      - 調查科
      - 秘書科
    - 稅務司
      - 關稅科
      - 專賣科
      - 企畫科
      - 經理科
    - 理財司
      - 銀行科
      - 特殊金融科
      - 官產科
    - 稅捐局
      - 總務科
      - 徵稽科
      - 徵收科
      - 查稽科
    - 稅務監督署
      - 總務科
      - 經理科
      - 徵稅第一科
      - 徵稅第二科
      - 警察科
    - 關稅
    - 硝礦局
    - 火柴公賣局
    - 阿片專賣籌備委員會
    - 專賣公署
    - 鹽務署
      - 鹽務局
      - 鑑驗緝私局
    - 吉黑榷運署
      - 採運局
      - 鹽倉局
      - 緝私局
      - 緝私隊
  - 民政部
    - 總務司
      - 調查科
      - 人事科
      - 經理科
      - 秘書科
      - 文書科
      - 財務科
      - 社會科
      - 行政科
      - 自治科
    - 地方司
    - 警務司
      - 督察室
      - 偵緝室
      - 外事科
      - 保安科
      - 總務科
      - 特務科
      - 技術科
    - 土木司
      - 保健科
      - 陸路科
      - 水路科
    - 衛生司
      - 警政科
      - 防疫科
    - 土地局
      - 總務處
        - 地籍科
        - 庶務科
      - 審查處
        - 調查科
        - 審定科
      - 測量處
        - 製圖科
        - 測量科
    - 首都警察廳
      - 警務科
      - 特務科
      - 保安科
      - 司法科
      - 衛生科
    - 中央警察學校
      - 本科
      - 別科
      - 研究科
      - 附屬警察官練習所
    - 特殊警察隊
      - 國境警察隊
      - 流動警察隊
      - 海濱警察隊
    - 哈爾賓警察廳
      - 警務科
      - 特務科
      - 外事科
      - 保安科
      - 刑事科
      - 衛生科
      - 收捐科
    - 哈爾賓市政籌備所
      - 哈爾賓特別市政局
      - 東省特別區市政管理局
      - 濱江市政籌備處
      - 松浦市政局

（大同二年五月五日現在）

執政

國務院

- 國務院會議
- 國務顧問
- 國道會議
- 逆產處理委員會
  - 判定部
  - 處理部
- 國道局
  - 總務處
  - 第一技術處
  - 第二技術處
- 積欠善後委員會
- 滿洲中央銀行繼承資產審定委員會
- 與安總署
  - 總務處
    - 秘書科
    - 會計科
    - 調查科
    - 庶務科
    - 人事科
    - 文書科
  - 政務處
    - 地方科
    - 蒙務科
    - 警務科
    - 文教科
  - 墾業處
    - 工商科
    - 農鑛科
    - 畜產科
- 國務院會議
  - 舊蒙務整理委員會
- 總務處
  - 秘書科
  - 文書科
  - 庶務科
- 監察部
  - 部付
  - 第一廳
    - 第一科
    - 第二科
    - 第三科
  - 第二廳
    - 第一科
    - 第二科
    - 第三科
  - 第三廳
    - 第一科
    - 第二科
    - 第三科
  - 第四廳
    - 第一科
    - 第二科
    - 第三科
- 審計部
  - 部付
  - 第一廳
    - 第一科
    - 第二科
    - 第三科
  - 第二廳
    - 第一科
    - 第二科
    - 第三科
  - 第三廳
    - 第一科
    - 第二科
    - 第三科
  - 第四廳
    - 第一科
    - 第二科
    - 第三科

監察院

最高法院

- 最高檢察廳
- 高等檢察廳
- 高等法院
- 地方檢察廳
- 地方法院（司法公署）

東、西、南、北各分省公署

- 總務廳
  - 會計科
  - 總務科
- 民政廳
  - 文教科
  - 勸業科
  - 警務科
  - 地方科
- 各旗公署
  - 警務科
  - 內務科
  - 總務科
- 旗自治會
- 與安警察局
  - 警務科
  - 特務科
  - 督察科

財政部

- 總務司
  - 文書科
  - 會計科
  - 調查科
- 稅務司
  - 關稅科
  - 國稅科
  - 專賣科
  - 企劃科
  - 經理科
- 理財司
  - 銀行金融科
  - 特殊產科
  - 官產科
- 稅關
- 稅務處
- 硝礦局
- 火柴公賣局
- 阿片專賣籌備委員會
- 專賣公署
- 鹽務署
  - 鹽務局
  - 製驗緝私局
- 吉黑榷運署
  - 採運局
  - 鹽倉緝私局
  - 緝私隊

實業部

- 總務司
  - 庶務科
  - 調查科
  - 秘書科
  - 文書科
  - 漁收計
  - 鑛務科
  - 農務科
  - 林務科
- 農鑛司
- 工商司
  - 工務科
  - 商務科
  - 權度科
- 官營林區
- 官營鑛山
- 官營農場
- 官營牧場
- 各試驗所

交通部

- 總務司
  - 庶務科
  - 秘書科
  - 人事科
  - 文書科
  - 航空科
  - 會計科
  - 調查科
- 鐵道司
  - 第一科
  - 第二科
  - 第三科
  - 第四科
  - 第五科
  - 經理科
  - 路工科
- 郵務司
  - 庶務科
  - 郵務科
  - 電務科
  - 貯金科
  - 工務科
  - 經理科
- 水運司
  - 庶務科
  - 港灣科
  - 河川科
  - 管船科
- 電政管理局
  - 庶務科
  - 業務科
  - 經理科
  - 工務科
- 無線電信局
- 各郵政管理局
- 各鐵路管理局
- 各鐵路工務局
- 中東鐵路督辦公署
- 瀋海鐵路保安維持會
- 各航務局
- 東北航政局
- 松里兩江郵船局
- 東北造船所
- 東北水道局
- 東北海軍江運處
- 遼河水利工程局
- 哈爾賓航業聯合會
  - 船東會
  - 船舶檢查委員會

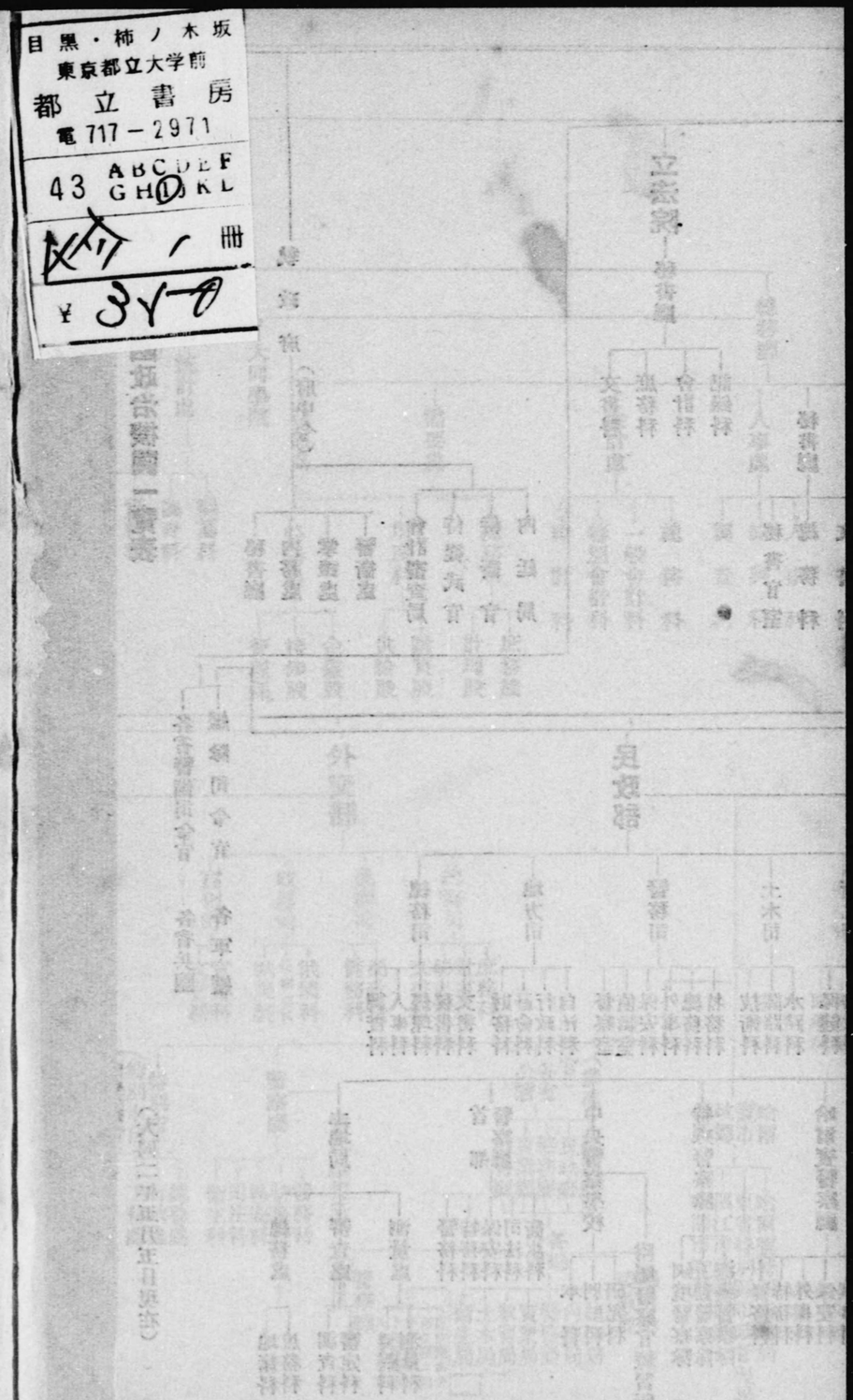
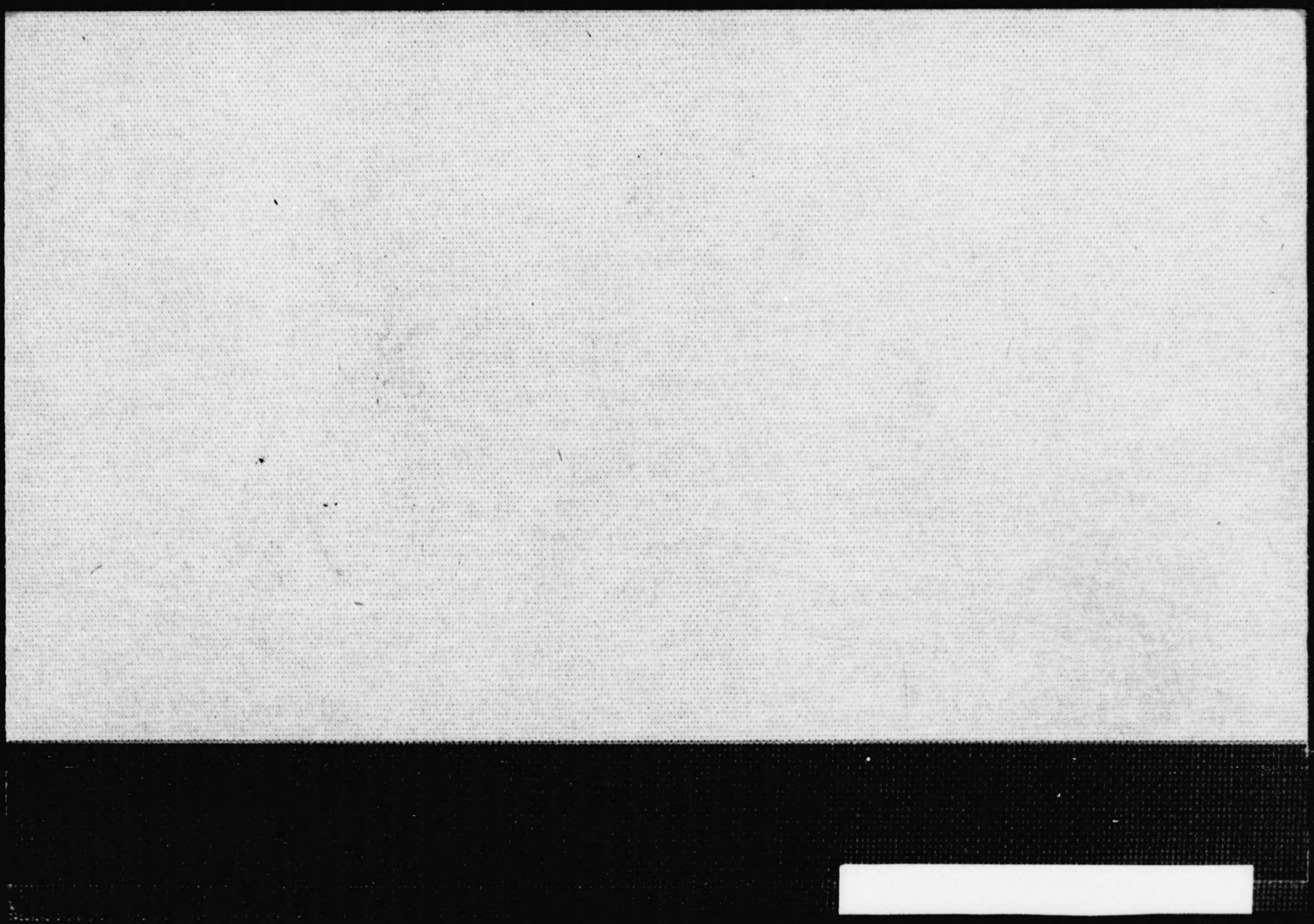
司法部

- 總務司
  - 秘書科
  - 會計科
  - 調查科
- 法務司
  - 民事第一科
  - 民事第二科
  - 刑事科
- 行刑司
  - 刑政科
  - 保護監獄科
- 司法部法令審議委員會
- 各監獄

文教部

- 總務司
  - 庶務科
  - 文書科
  - 調查科
  - 秘書科
- 學務司
  - 總務科
  - 專門教育科
  - 普通教育科
- 禮教司
  - 社會教育科
  - 宗教科
- 教科書編審委員會

目黒・柿ノ木坂
東京都立大学前
都立書房
電 717－2971
43 ABCDEF GHIJKL
1 冊
¥ 350



iiE58